使用説明書

ご使用前に
必ずお読みください

お買い上げありがとうございます。

ミノルタα-7000はオートフォーカスをはじめ、撮影に必要な操作を徹底的に自動化したシステム一眼レフカメラです。

α-7000の主な特長

▶迅速・正確なオートフォーカス

▶レンズの焦点距離に合わせて最適のプログラムが自動設定されるオートマルチプログラム

▶キー操作による平易なカメラコントロール

▶見易い大型液晶表示による撮影情報の表示

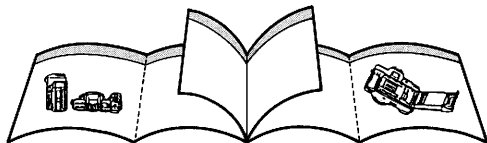
▶装てんから取り出しまでのフイルム自動送り

▶多様な露出制御

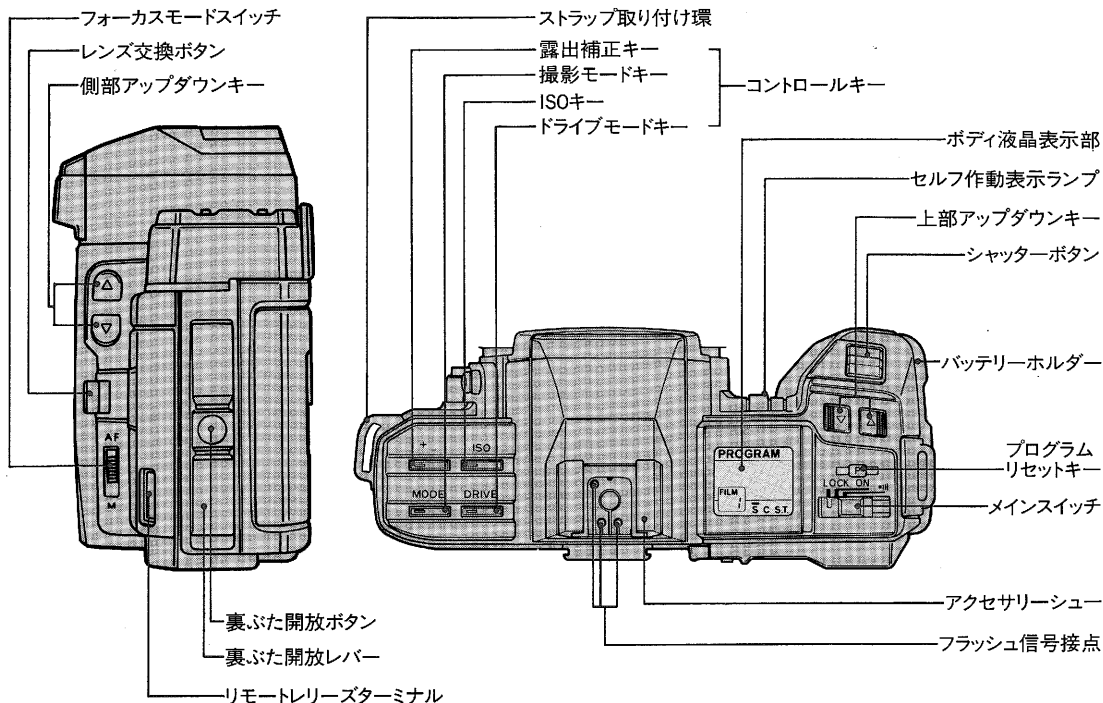
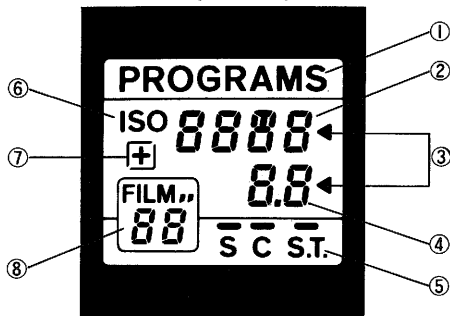
▶αレンズをはじめとする充実したシステムアクセサリー

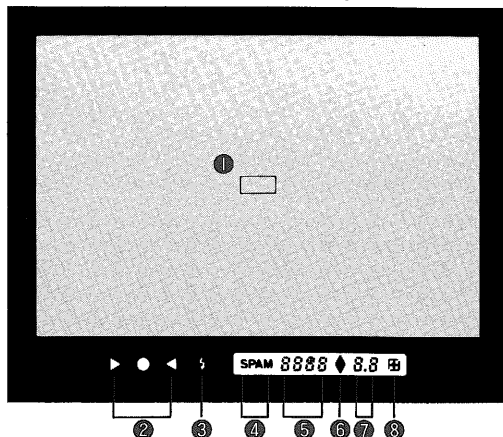
ご使用前に、この使用説明書を最後までお読みください。また旅行など撮影におでかけの際は、本書をお持ちいただくと便利です。さらに本書とは別に「α-7000オート撮影早わかり」も用意しておりますのであわせてご覧ください。お読みになったあとは保証書とともに大切に保管してください。

ミノルタα-7000の機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

この使用説明書の説明は、AF50mmF1.7レンズ付きで行なっていますが、ほかのαレンズをお買い求めになっても使用方法は同じです。

この使用説明書は、各部の名称と照らし合わせてお読みいただけるようになっています。

各部の名称①

フォーカスモードスイッチ
レンズ交換ボタン
側部アップダウンキー
ストラップ取り付け環
露出補正キー
撮影モードキー
ISOキー
ドライブモードキー
コントロールキー
ボディ液晶表示部
セルフ作動表示ランプ
上部アップダウンキー
シャッターボタン
バッテリーホルダー
プログラムリセットキー
メインスイッチ
アクセサリーシュー
フラッシュ信号接点
裏ぶた開放ボタン
裏ぶた開放レバー
リモートレリーズターミナル
AF
M
ISO
MODE
DRIVE
PROGRAM
FILM
LOCK ON

表示部について 撮影のための情報はボディ液晶表示部とファインダー内に表示されます。

ファインダー内表示

①撮影モード
②シャッター速度/フイルム感度(ISO値)
③マニュアルセットマーク
④絞り値/露出補正値
⑤ドライブモード
⑥ISOマーク
⑦露出補正マーク
⑧フイルムカウンター/セルフ・バルブカウンター

❶フォーカスフレーム
❷フォーカス表示
❸フラッシュ表示
❹撮影モード
❺シャッター速度/フイルム感度(ISO値)
❻測光連動外警告/メータードマニュアル表示
❼絞り値/露出補正値
❽露出補正マーク

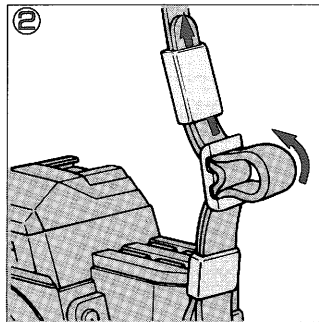
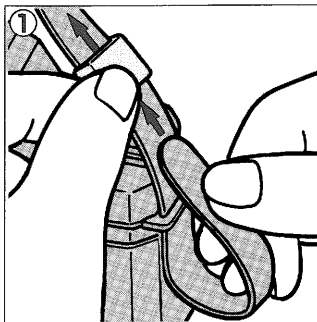
暗いときには液晶表示部を自動的に照明します。

ボディ液晶表示およびファインダー内の表示は、いずれも全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。

目　次

準備編

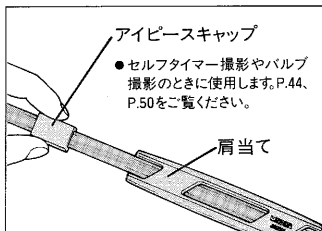
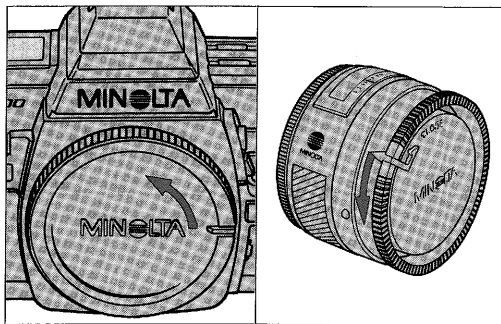
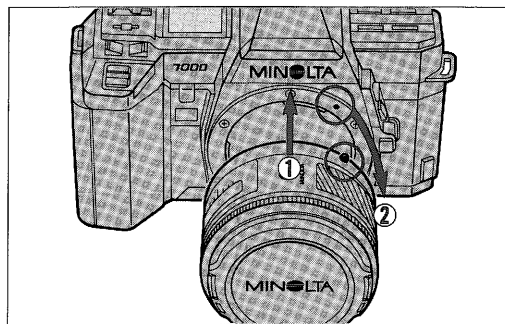
ストラップを取り付けます

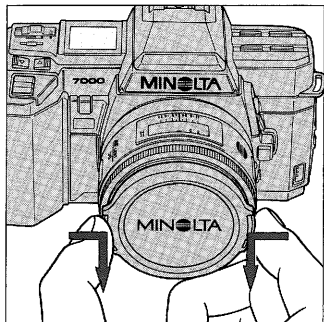
1 **ストラップの両端をほどきます。**

2 **ストラップは① ②の順で取り付けます。**

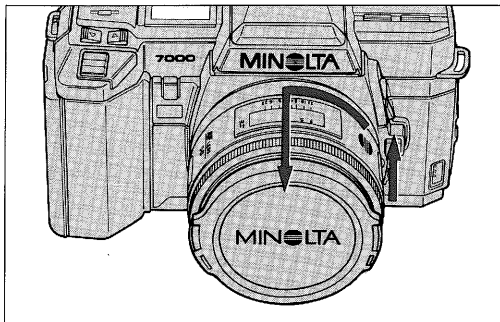
● 肩から下げやすい長さに調節してください。

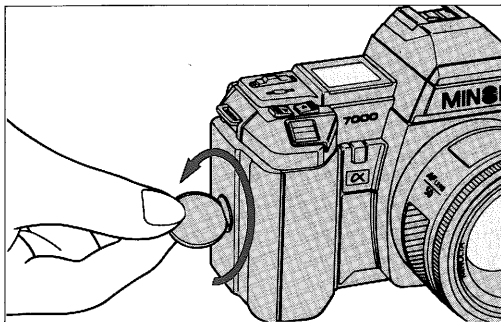
アイピースキャップ

● セルフタイマー撮影やバルブ撮影のときに使用します。P.44、P.50をご覧ください。

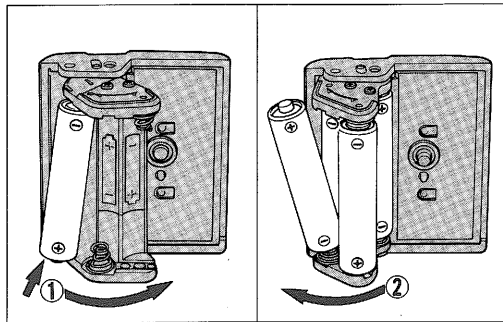
肩当て

レンズを取り付けます

1 キャップを外します。

2 2つの赤点を合わせてはめ込み、カチリとロックがかかるまで回します。

3 レンズキャップを外します。

レンズを取り外すときは

レンズ交換ボタンを押したまま、止まるまで回して引き出します。

電池を入れます

1 バッテリーホルダーを取り外します。

使用する電池…単4形アルカリ乾電池4本

- 単4形アルカリ乾電池には〝LR-03〟と表示されていますので、確めてお買い求めください。
- バッテリーホルダーBH-70T（別売）を使用すれば、6Vパックリチウム電池（2CR5）、バッテリーホルダーBH-70L（別売）を使用すれば、単3形電池が使えます（P.63参照）。
- P.68の「電池に関する注意」を合わせてお読みください。

2 ⊕　⊖の向きに電池を入れます。

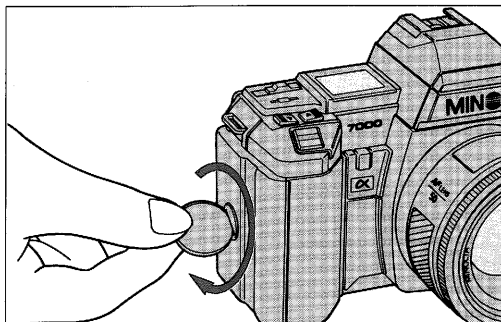
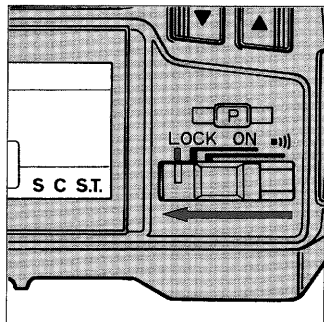
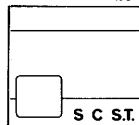
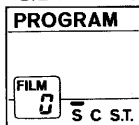
- ⊖側でスプリングを押しながら⊕側を接点の溝へ入れます。
- 交換するときは、⊕側接点の溝にペン先状のものを差し込んで⊕側から引き出します。

電池を入れる前

S C S.T.

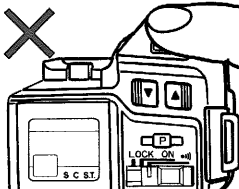
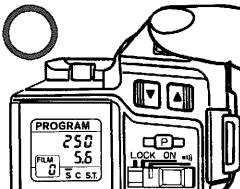
電池を入れた後

PROGRAM

FILM 0 S C S.T.

3 メインスイッチをLOCKに。

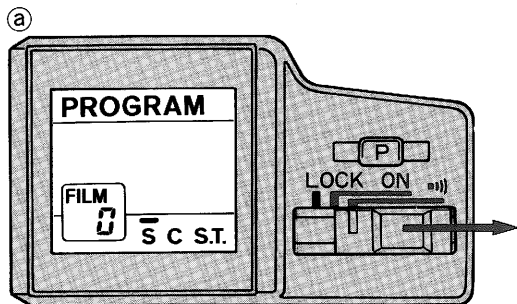
4 バッテリーホルダーを取り付けます。

電池を入れたら電池性能がOKか確かめましょう。

● メインスイッチをONまたは •))) にして、シャッターボタンに指を触れたとき、絞り・シャッター速度が表示されればOKです。

● 何も表示されないときは、電池が消耗していますので、新品電池に交換してください(電池の向きに誤りがないか確かめましょう)。

メインスイッチについて

ⓐ

ⓑ

メインスイッチにはLOCK・ON・ ■))) の3つの位置があります。

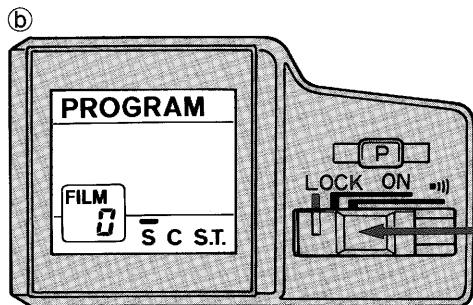
ⓐカメラを使うときはONまたは■))) に。

■))) では以下の場合にブザーが鳴ってお知らせします。

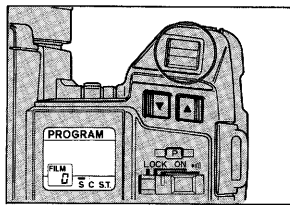
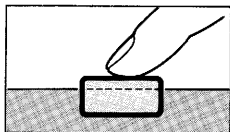
①ピントが合ったとき(ピピッ)

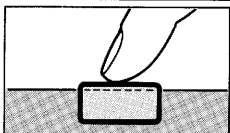
②セルフタイマーが働いているとき(ピーピー…)

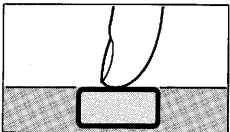
③フイルムが終わったとき(ピ―――)

④シャッター速度が遅くてカメラぶれしやすいとき(ピピピ…PおよびAモードのとき)

ⓑカメラを使わないときはLOCKに。

不用意にボタンやキーを押しても安全です。

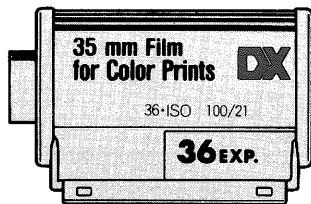
シャッターボタンについて

シャッターボタンには3つの働きがあります。
あらかじめシャッターボタン操作に慣れておきましょう。

指を触れると…

測光回路が働き、ボディ液晶表示部およびファインダー内に絞り値・シャッター速度が表示されます。※ 指を離しても10秒間表示されます。

軽く押すと…

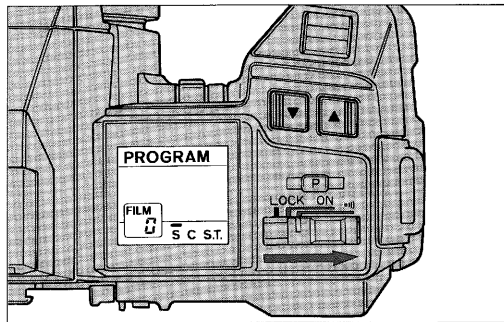
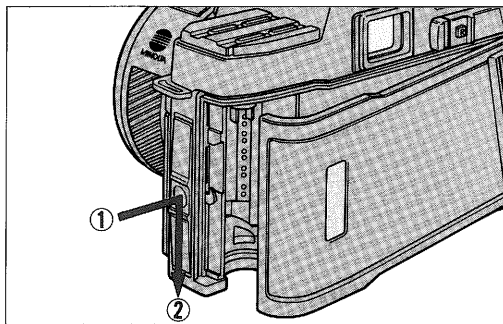
オートフォーカスが働いてピントを合わせます。押している間は合わせたピントが固定されます。(P.18〜21参照)。

押し込むと…

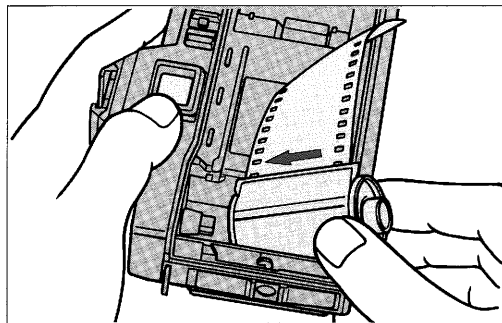
ピントが合えばシャッターが切れます。

※手袋などをしているときは、軽く押してください。

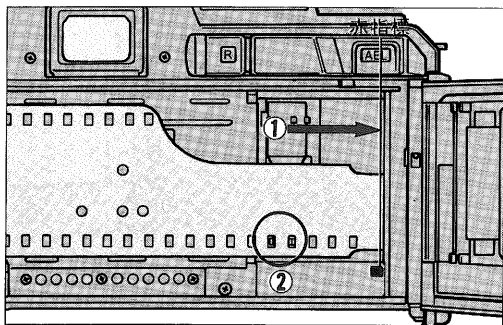
フイルムを入れます

フイルム感度は自動セット

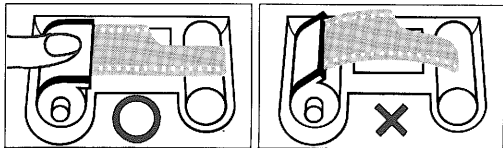
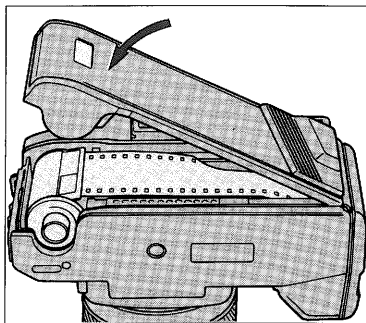
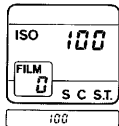
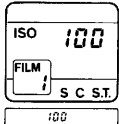
DXコード付きフイルムならフイルム感度(ISO)は自動的にセットされます。

● フイルム感度の確認および、DXコードがないフイルムの感度セットについてはP.49をご覧ください。

1 メインスイッチをONまたは ▪))) に。

2 裏ぶたを開けます。

●裏ぶた開放ボタンを押しながらレバーを下げます。

3 フイルムを入れます。

●カメラのななめ下から差し込みます。

★フィルムの出し入れは直射日光を避けて行なってください。
★シャッター幕には手を触れたり、フイルムの先があたらないように注意してください。

4 フイルムの先を赤指標に合わせて歯車とフイルムの穴をかみ合わせます。

●浮き上がらないようにフイルムをおさえてください。

●裏ぶたを閉じる前に、歯車がかみ合っているか確かめましょう。

5 裏ぶたを閉じます。

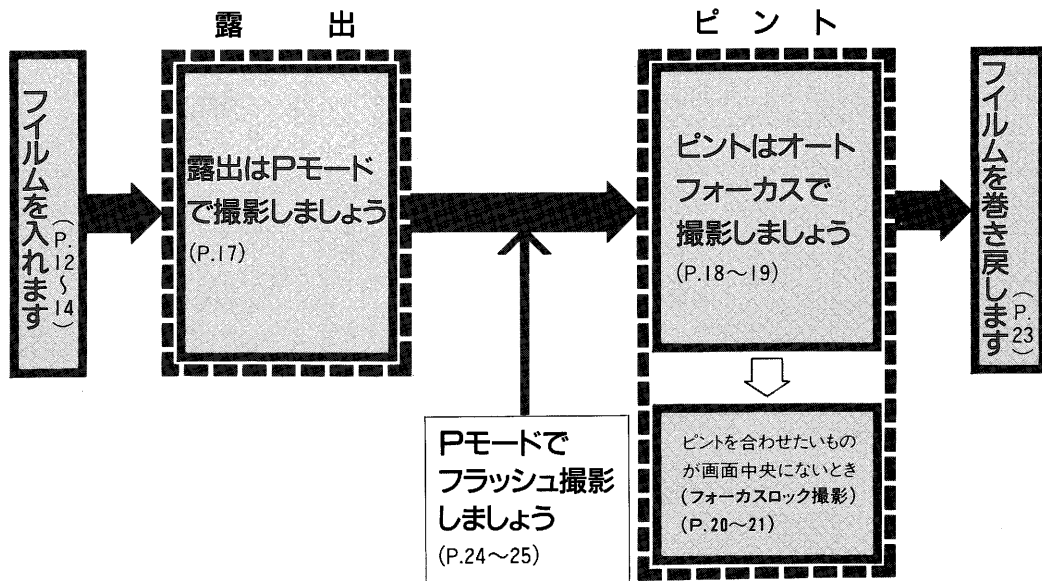
●フイルムカウンターが 1 になるまで自動的に巻き上げられ、フイルム感度が表示されます。

6 フイルムカウンターが 1 になっていることを確かめます。

★フイルムカウンターが 0 のままならフイルムが送られていないので、正しく入れ直してください。

これで撮影の準備はOKです。

基本撮影編

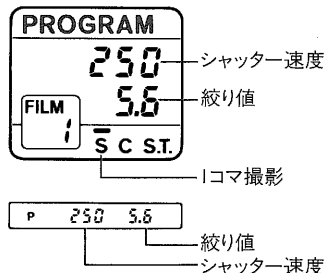
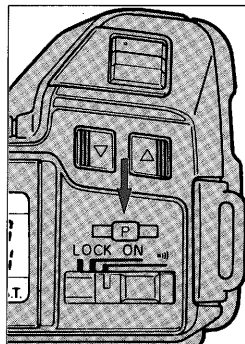
基本的な使い方は次のとおりです。

露出はPモードで撮影しましょう

Pモード(プログラムAE)

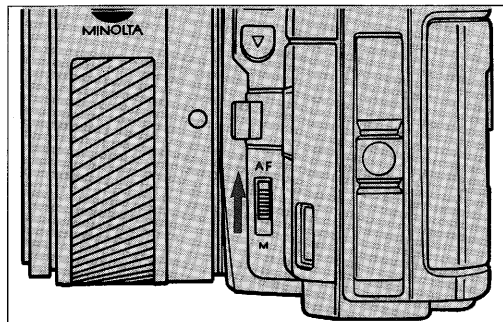
初めて一眼レフを手にされる方や、面倒な操作の煩わしい方、構図やシャッターチャンスに専念したい方はPモードで。

Pモードでは、明るさに応じて適正露出になるようカメラが自動的に絞りとシャッター速度を決定します。スナップ、風景撮影などほとんどPモードで撮影できます。

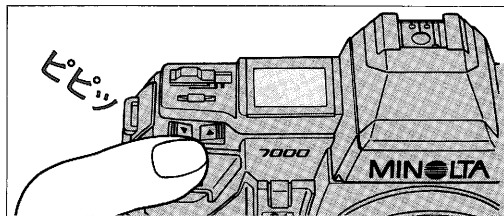
● AEとは自動露出(Auto Exposure)のことです。

露出・絞り・シャッター速度については、写真の基礎(P.54〜59)をご覧ください。

プログラムリセットキーを押せば、Pモードにセットされます。

● 爪先で軽く押してください。
● 同時に1コマ撮影、露出補正値は±0にセットされます。
● シャッターボタンに指を触れると上図のようにボディ液晶表示部とファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。
● コントロールキーによるPモードへの設定はP.30をご覧ください。

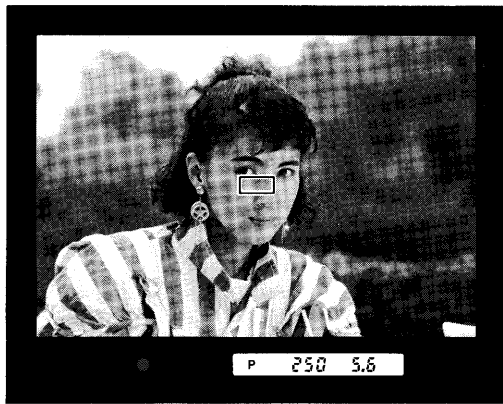
ピントはオートフォーカスで撮影しましょう

1 フォーカスモードスイッチをAFに。

2 ピントを合わせるものにフォーカスフレーム［　］を重ねます。

●ピントを合わせたいものが画面中央にないときは、P.20～21をご覧ください。

3 シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

- ファインダー内に●マーク(緑LED)が点灯すればOK。メインスイッチが■)))のときはブザー(ピピッ)が鳴ってピントが合っていることをお知らせします。
- シャッターボタンを軽く押している間はピントが固定されます(フォーカスロック)。

フォーカス表示▶●◀の内容

●マーク(緑LED) 点灯	合焦表示(被写体にピントが合っています)
▶マーク(赤LED) 点灯	近距離警告(被写体が近すぎます)
▶◀マーク(赤LED) 点滅	検出不能警告(ピントが合わせられません。オートフォーカスの苦手な被写体P.46参照)

4 ●マークを確かめ、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

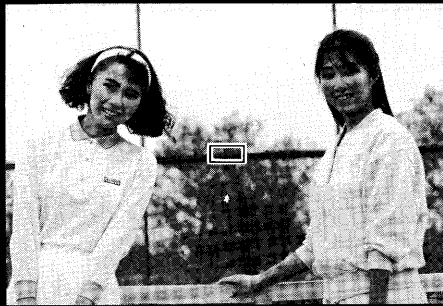
★オートフォーカス撮影では、いつでもピントの合った写真を撮っていただくため、ピントが合っていない状態ではシャッターは切れません。

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき(フォーカスロック撮影)

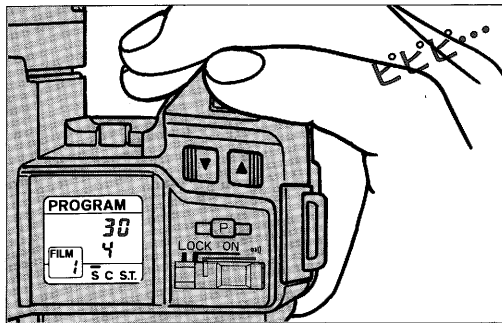
ピントを合わせたいものがフォーカスフレームから外れるような構図のとき、そのまま撮影すると、右の写真のように背景にピントが合ってしまいます。このようなときは、フォーカスロックを利用します。

1 ピントを合わせるものにフォーカスフレームを重ねます。

2 シャッターボタンを軽く押し、ピントを合わせます。

- ●マークを確かめます。
- シャッターボタンを軽く押している間（●マーク点灯中）はピントが固定されます（**フォーカスロック**）。

3 シャッターボタンを軽く押したまま構図を決め、シャッターボタンを押し込みます。

★シャッターボタンから指を離せば、フォーカスロックは解除されます。

カメラぶれ警告について

メインスイッチが ■))) のとき、シャッター速度が遅ければ、シャッターボタンに指を触れるとブザー(ピピピ…)が鳴りますので、カメラぶれに注意してください。

使用レンズの焦点距離	警告がでるシャッター速度
34mm以下	1/30秒より低速
35〜105mm	1/60秒より低速
106mm以上	1/125秒より低速

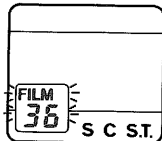
カメラぶれを防ぐには……

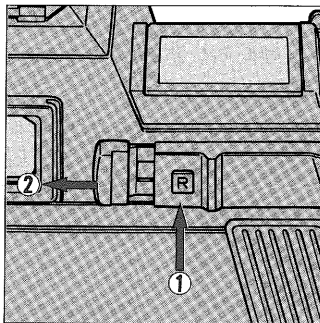
■カメラをしっかり構えてください。
■シャッターを切るときは、静かに押してください。
■三脚またはフラッシュをお使いください。

正しいカメラの構え方

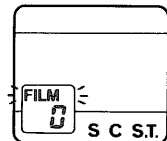
横位置　　縦位置

フイルムを巻き戻します

フイルム終了

フイルムが終わると巻き上げが停止し、フイルムカウンターが点滅します。

● メインスイッチが■))) のとき、シャッターボタンに指を触れるとブザー(ピー)が鳴ります。

1 Rボタン①を押しながら、巻き戻しレバー②を止まるまでスライドさせます。

● フイルムの巻き戻しが始まります。

巻き戻し完了

巻き戻しが完了すると自動停止します。

● 液晶表示部はFILMマークのみ点滅します。

★フイルムカウンターが 0 になっていることを確認します。

2 裏ぶたを開けてフイルムを取り出します。

★フイルムカウンターが 0 になる前にモーターが停止したときは、裏ぶたを開けず電池を交換してください。

★フイルムの出し入れは直射日光を避けて行なってください。

★規定枚数以上の撮影をされますと最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。

Pモードでフラッシュ撮影しましょう

ミノルタαシステム専用のプログラムフラッシュ4000AF・2800AF・1800AFを使ったPモードでのフラッシュ撮影では、絞りもシャッター速度も操作する必要がなく、気軽にフラッシュ撮影が楽しめます。

昼間でもフラッシュ撮影

室内や暗いところではもちろん、昼間でも屋外の木陰や、窓辺で人物が逆光になっている場合、フラッシュを使わずに撮影すれば右ページ右上の写真のように顔が暗くなってしまいますが、Pモードでフラッシュ撮影をすれば、人物も背景もきれいに写せます(**日中シンクロ撮影**)。

暗いところでは……

暗くてコントラストが低い場合、充電完了後にシャッターボタンを軽く押せば、フラッシュが赤色光を照射してピントを合わせます(AF補助光機能)。

光のコントロールは……

カメラ自身がフラッシュの光量を調整しますので、正確な露出が得られます(ダイレクト測光)。

Pモード以外の撮影モードでのフラッシュ撮影

本機はPモード以外のAモード、Mモードの各撮影モードでも多彩なフラッシュ撮影が楽しめます。特にAモード(絞り優先AE)では、夜景や夕景などの背景をきれいに写せる**スローシンクロ撮影**も簡単にできます。

●フラッシュの充電が完了すれば、シャッターボタンに指を触れると、ファインダー内の⚡が点滅します。

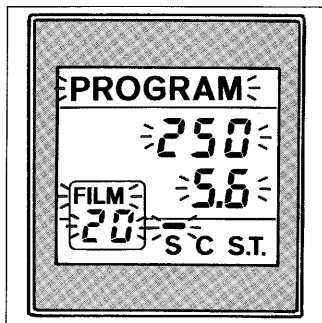
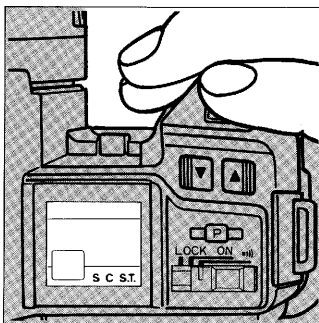
●撮影を行なって適正露出が得られたときは、ファインダー内の⚡の点滅が速くなります。

詳しくは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

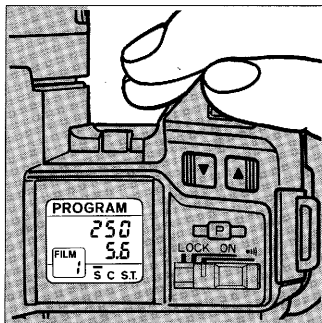
自然光による撮影

日中シンクロ撮影

電池の交換

メインスイッチがONまたは ■))) のとき次の状態なら、電池が消耗していますので4本とも新品電池に交換してください。

■1コマ撮影でシャッターを切った後、そのまま手を離さないでシャッターボタンを押し続けて、ボディおよびファインダーの液晶表示がすべて点滅したとき。

■シャッターボタンを押してもシャッターが切れず、液晶表示に何も点灯しないとき。

■カメラの作動が途中で停止したとき。

電池のチェック

Iコマ撮影でシャッターを切った後、シャッターボタンを押し続けてすべての液晶表示が表示されれば、電池の性能はOKです。

撮影可能本数

24枚撮りフイルムの場合(当社試験条件による※)

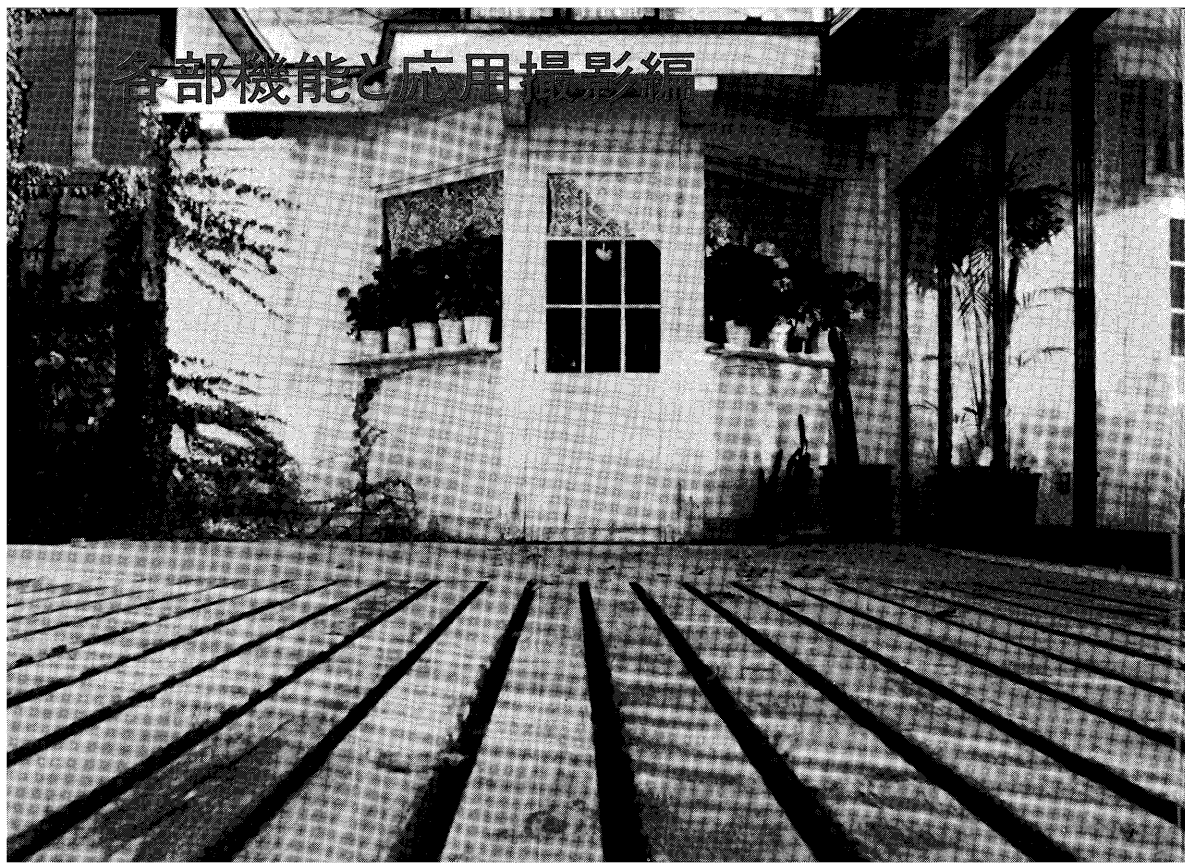
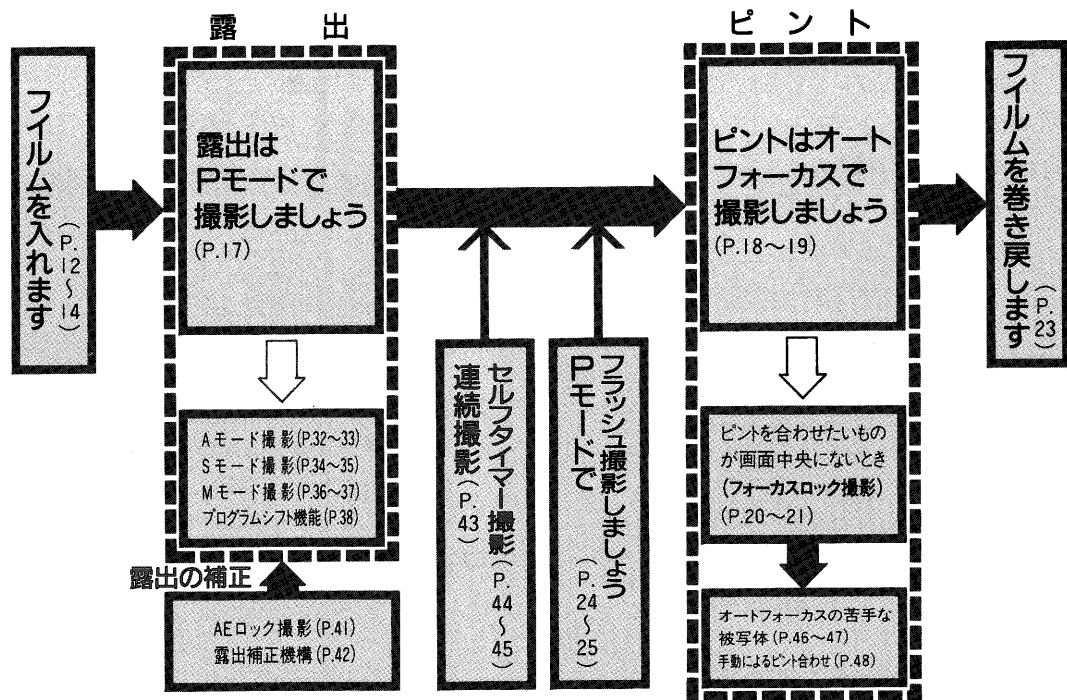
バッテリーホルダー BH-70S	バッテリーホルダー BH-70T	バッテリーホルダーBH-70Lまたは 外部電源パックEP-70		
単4形 アルカリ 乾電池	6Vパックリチウム電池 2CR5 三洋電機製	単3形 アルカリ 乾電池	単3形 マンガン 乾電池	単3形 Ni-Cd 乾電池
約25本	約85本	約65本	約20本	約20本

※常温20℃、新品電池、連続使用において

★オートフォーカス、測光などを繰り返すと、実際に撮影できる本数は少なくなります。またメインスイッチがLOCK位置でも、わずかながら電池が消耗されます。

★一度に多くの撮影を行うときや寒冷地ではバッテリーホルダーBH-70T、バッテリーホルダーBH-70Lまたは外部電源パックEP-70をおすすめします(P. 63参照)。

これでα-7000の基本的な使い方はOKです。

各部機能と応用撮影編

よりよい写真を撮っていただくために、主に次のことをご説明します。

Pモード以外の撮影モードへのセットについて

本機は、一眼レフならではの撮影を楽しむため、Pモード以外の撮影モードを装備しています。

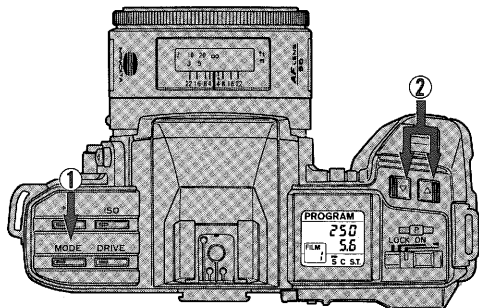
〈撮影モード〉

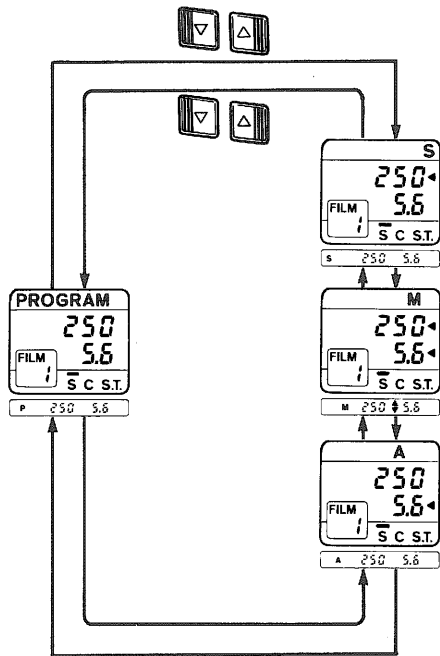
Pモード：プログラムAE

Aモード：絞り優先AE

Sモード：シャッター速度優先AE

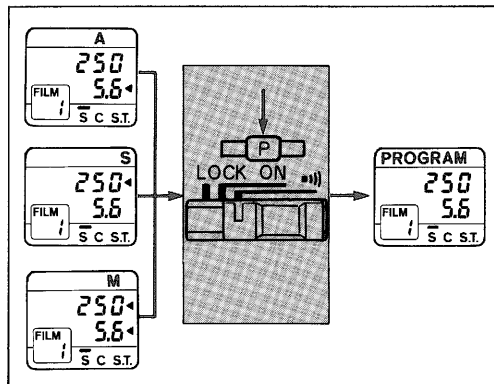
Mモード：マニュアル

● AEとは自動露出（Auto Exposure）のことです。

〈撮影モードのセット〉

撮影モードキー①を押しながら、希望する撮影モードが表示されるまで、ボディ上部のアップダウンキー②を押します。表示は右のように切り替わります。

プログラムリセットキー

プログラムリセットキーを押せば、どのような状態からでも

①撮影モードはPモード(プログラムAE)
②ドライブモードは1コマ撮影(S)
③露出補正値は±0

に瞬時にセットされます。

Aモード(絞り優先AE)撮影

Aモードでは、自由に絞り値が選べますので、ポートレート撮影、近接撮影などで絞り効果を生かした撮影に効果的です。シャッター速度は、被写体の明るさ、セットした絞り値に応じて、適正露出になるようカメラが自動的に決定します。

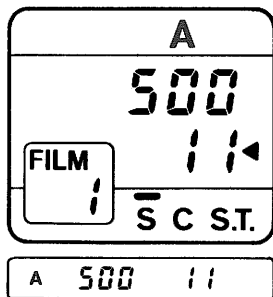
※絞り値は、レンズの開放F値から最小F値まで½段ごとに設定できます。

露出・絞り・シャッター速度については、写真の基礎(P.54〜59)をご覧ください。

主題を強調する

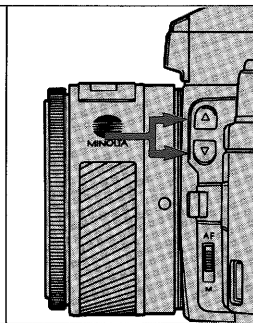
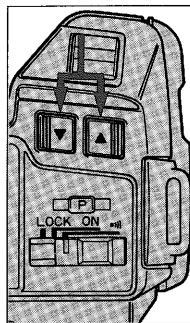
絞り値が小さいほど、背景がボケてピントを合わせたものだけがはっきり写ります。

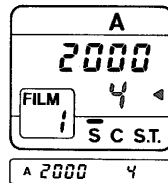
奥行を出す

絞り値が大きいほど、ピントを合わせたものの前後もはっきり写ります。

1 Aモードにセットします。(P.30参照)

2 シャッターボタンに指を触れます。

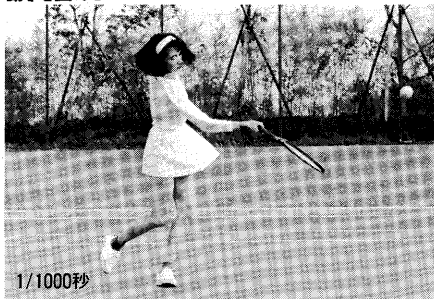
● 測光回路が働き、上図のようにボディ液晶表示部とファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。

● ◀マークにより、絞り値がセットできることを示します。

3 カメラ上部または側部のアップダウンキーを押して、希望する絞り値をセットします。

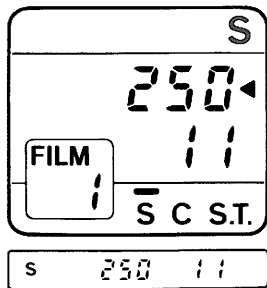
例:絞り値F11をF4にセットしたいときは、アップキーを6回押します。

Sモード(シャッター速度優先AE)撮影

Sモードでは、自由にシャッター速度が選べますので、動きのあるスポーツ写真などの撮影に効果的です。絞り値は、被写体の明るさ、セットしたシャッター速度に応じて、適正露出になるようカメラが自動的に決定します。

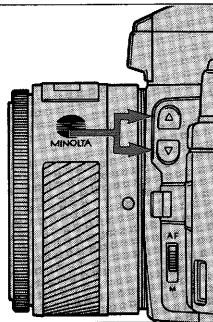
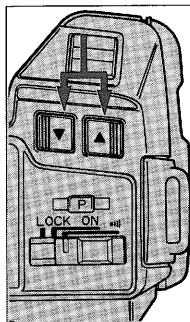
> 露出・絞り・シャッター速度については、写真の基礎(P.54～59)をご覧ください。

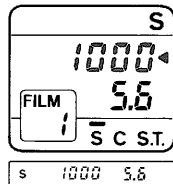
動きを止める

シャッター速度が速いほど、動いているものが静止して写ります。

動きをぶらす

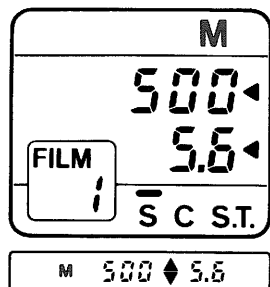
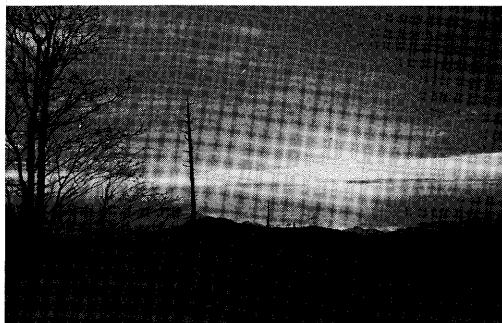
シャッター速度が遅いほど動いているものが流れるように写ります。

1 Sモードにセットします。(P.30参照)

2 シャッターボタンに指を触れます。

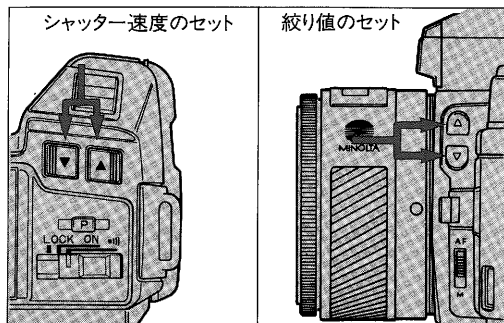
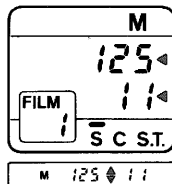
- 測定回路が働き、上図のようにボディ液晶表示部とファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。
- ◀マークにより、シャッター速度がセットできることを示します。

3 カメラ上部または側部のアップダウンキーを押して、希望するシャッター速度をセットします。

例：シャッター速度1/250秒を1/1000秒にセットしたいときは、アップキーを2回押します。

★Sモードでは“bulb”はセットしないでください。“bulb”はMモードでセットしてください。

Mモード(マニュアル)撮影

Mモードでは、絞りとシャッター速度の双方を自分で選ぶことにより、夕景、夜景撮影等で適正露出はもちろん好みの露出で写したり、絞りやシャッター速度の効果を思い通りに活かすことができます。

1 Mモードにセットします。(P.30参照)

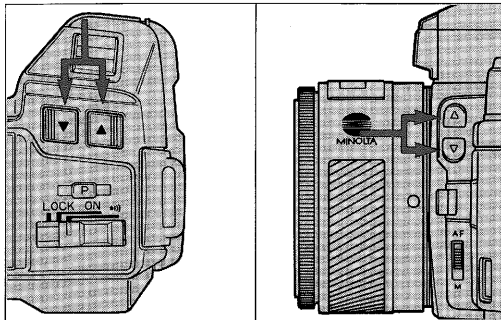
2 シャッターボタンに指を触れます。

- 測光回路が働き、上図のようにボディ液晶表示部とファインダー内にシャッター速度と絞り値が表示されます。
- ◀マークにより、シャッター速度と絞り値がセットできることを示します。

3 ボディ上部のアップダウンキーで希望するシャッター速度を、ボディ側部のアップダウンキーで希望する絞り値をセットします。

ファインダー内の▲▼マークで露出がわかります。

▲と▼が両方点灯すれば カメラが判断した適正露出です。	M 125 ▲▼ 11
▲が点灯すれば カメラが判断した適正露出よりオーバー露出です。	M 60 ▲ 11
▼が点灯すれば カメラが判断した適正露出よりアンダー露出です。	M 250 ▼ 11

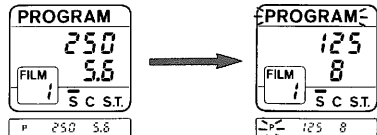
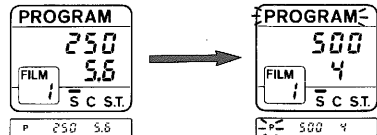
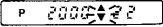
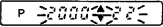
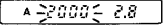
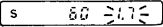
- ▲▼マーク点灯表示は±1/4段の範囲です。
- バルブ撮影についてはP.50をご覧ください。

プログラムシフト機能

Pモードにセットしていても、このシーンだけは、どうしてもF4で撮りたいとか、1/1000秒で撮りたい、という場合が生じます。そのとき露出は一定のまま、瞬時に絞りとシャッター速度の組み合わせを切り換え、一時的にAモードとして、または、Sモードとして使えるのがプログラムシフト機能です。

操作方法

撮影モードがPモードの状態で、希望する絞り値またはシャッター速度になるまで、カメラ上部または側部のアップダウンキーを押します。

- プログラムシフト時は撮影モード表示の"P"(ファインダー)、"PROGRAM"(ボディ)がそれぞれ点滅します。
- プログラムシフトは1/2段ごとにできます。

例:プログラムでF5.6を指示しているとき、F8で撮影したいときは、ダウンキーを2回押します。

例:プログラムで1/250秒を指示しているとき、1/500秒で撮影したいときは、アップキーを2回押します。

- プログラムシフトをしたあと、撮影をせずに、シャッターボタンから指を離すと10秒後に表示が消えると同時に解除され、元のプログラムに戻ります。撮影後も指を離すと表示が消えて元のプログラムに戻ります。

★フラッシュ撮影時は、プログラムシフトはできません。

露出の警告

各撮影モードでボディ液晶表示およびファインダー内表示が次のように点滅する場合、以下のようにしてください。

撮影モード	液晶表示	原因	処置
P・A・S・M	例 PROGRAM 2000 22 FILM 1 S C S.T. / P 2000 22	被写体が明る過ぎまたは暗過ぎてカメラの測光範囲を越えています	①
P	例 PROGRAM 2000 22 FILM 1 S C S.T. / P 2000 22	被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて使用レンズの絞り値とシャッター速度の範囲(1/2000秒〜30秒)を越えています	①
A	例 A 2000 2.8 FILM 1 S C S.T. / A 2000 2.8	被写体が明る過ぎまたは暗過ぎてシャッター速度の範囲(1/2000〜30秒)を越えています	②
S	例 S 60 1.7 FILM 1 S C S.T. / S 60 1.7	被写体が明る過ぎまたは暗過ぎて使用レンズの絞り値の範囲を越えています	③

①被写体が明る過ぎるとき…NDフィルターを使用するか、被写体の明るさを減らすようにします。
　被写体が暗すぎるとき…フラッシュ撮影を行なうか、被写体の明るさを増すようにします。
②シャッター速度が点滅しないよう絞り値を変更します。
③絞り値が点滅しないようシャッター速度を変更します。

露出の補正

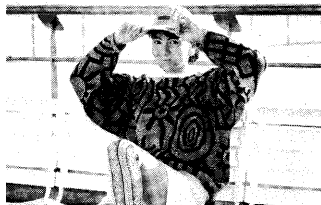
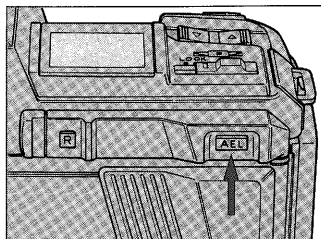
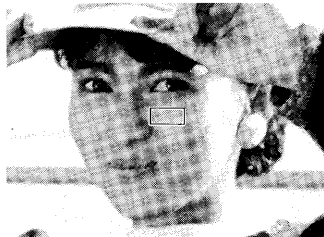
写したいものとその背景とで極端な明暗差がある場合、露出の補正をします。(P・A・Sモード撮影時)

たとえば逆光のときなど人物の背景が極端に明るい場合、そのまま撮影すると、人物が暗く写ってしまいます。このような場合、AEロックまたは露出補正機構を使って、人物が適正な露出になるよう露出の補正をします。

● プログラムフラッシュによる日中シンクロ撮影でも露出の補正ができます(P.24参照)。

補正しない場合

補正した場合(AEロック使用または＋側へ露出補正)

AEロック撮影

1 適正露出にしたい被写体をファインダー内一杯におさめます。

● 必要に応じて被写体に近づいたり、ズームレンズの場合は望遠側にセットするなどします。

2 AEロックボタンを一杯に押し込みます。

● このとき、被写体の露出値がロック(記憶)されます。

3 AEロックボタンを押し込んだまま、希望する構図にしてシャッターを切ります。

★AEロックは、AEロックボタンを押し込んでいる間だけ有効です。

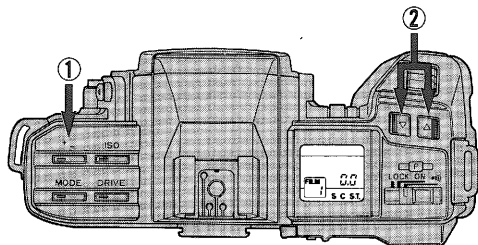
● 焦点距離によって絞り値の変化するズームレンズの場合でも、変化量をカメラが自動的に補正をするため、AEロックしながらズーミングを行なえます。

● AEロック中に絞り値・シャッター速度の変更が可能です。

● セルフタイマー撮影時、AEロックボタンを押し込みながらシャッターボタンを押し込むとAEロック値での撮影が可能です。

露出補正機構

● セット後は⊞または⊟が露出補正中であることを示します。

● セット後、露出補正キーを押せば補正値の確認ができます。

露出補正キー①を押しながらアップダウンキー②を押して希望の補正値にセットします。

● 補正は−4.0から+4.0まで0.5段ごとに補正できます。

● フラッシュ撮影時も露出補正が可能です。

例：露出補正値±0から+1.5にセットしたいときは、露出補正キーを押しながら、アップキーを3回押します。

露出補正の目安

被　写　体	露出補正量
○逆光の人物 ○空のたくさん入った風景	+1〜+2
○雪上の人物 ○空をバックに入れた人物	+1 （画面の中の雪や空の部分が少ない場合、補正は不要です。）
○バックが暗いとき ○スポットライトを浴びた人物	−1〜−2

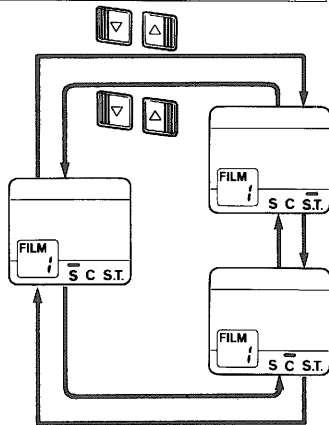
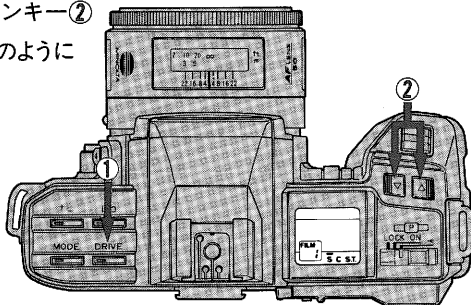
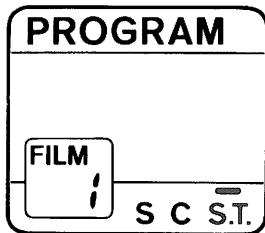
ドライブモード(1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー撮影)のセットについて

1コマ撮影を連続撮影に切り替えたり、セルフタイマー撮影をするときに使用します。

〈ドライブモード〉

S(Single)	1コマ撮影	シャッターを切れば、1コマ撮影されて、次のコマまで巻き上げられます。
C(Continuous)	連続撮影	シャッターボタンを押し続けると、 撮影 → 巻き上げ → ピント合わせ が繰り返されます。 ピントが合えばシャッターが切れる
S.T.(Self Timer)	セルフタイマー撮影	自分自身を含めた記念撮影に便利です(P.44参照)。

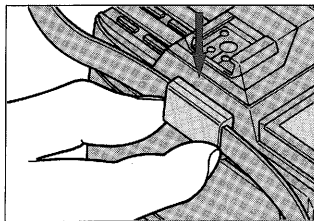
〈ドライブモードのセット〉

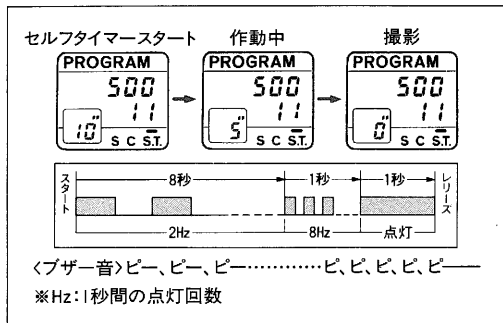
ドライブモードキー①を押しながら、希望するドライブモードが表示されるまで、アップダウンキー②を押します。表示は右のように切り替わります。

セルフタイマー撮影

1 S.T.にセットします。(P.43参照)

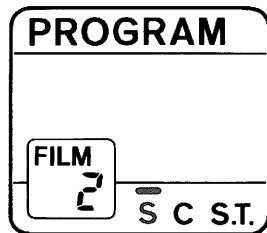
●三脚等を利用してカメラを固定します。

★セルフタイマーはシャッター速度がbulb(バルブ)にセットされていると作動しません。

2 ピントを合わせてからシャッターボタンを押します。

★いっきにシャッターボタンを押すと、ピントを合わす前にセルフタイマーが作動しますので注意してください。

●ファインダーから目を離してシャッターを切るときは、逆入光を防止するためにアイピースキャップを接眼部に取り付けます。

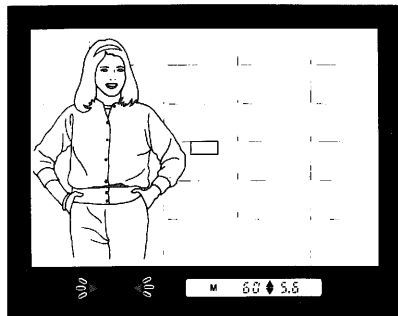
〈ブザー音〉ピー、ピー、ピー…………ピ、ピ、ピ、ピ、ピ――
※Hz:1秒間の点灯回数

10秒後に撮影が行われます。

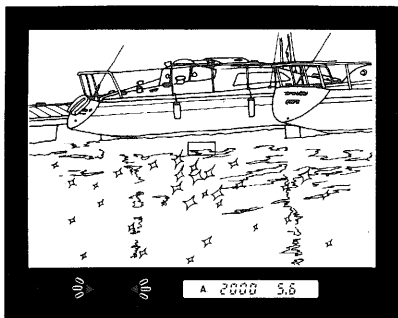
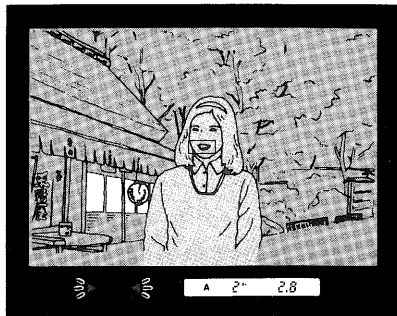
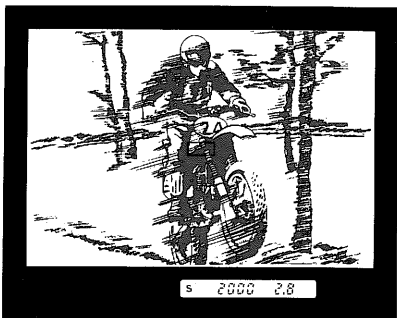
- 撮影までの時間が表示されます。
- セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフ作動表示ランプが点滅します。
- メインスイッチが ■))) のとき、ブザーの連続音でもお知らせします。
- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、ドライブモードキーを押します。

3 セルフタイマー撮影後了後、ドライブモードをSかCに戻します。

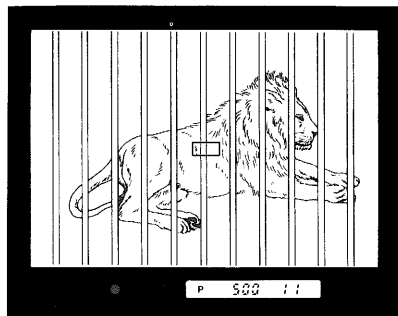
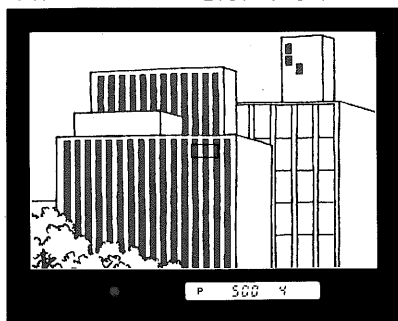
- プログラムリセットキーを押すと、ドライブモードはSにセットされます。同時に撮影モードはPモード、露出補正値は±0にセットされます。

オートフォーカスの苦手な被写体

次のような被写体のときは、AF測距しないことがあります。

Ⓐコントラスト(明暗差)の極度に低い被写体
・横方向にコントラストのない被写体

Ⓑ非常に暗い被写体

Ⓒ強い逆光状態にある被写体・明るすぎる被写体

Ⓓ高速で移動する被写体

次のような被写体のときは、誤測距することがあります。

Ⓔ遠くと近くに共存する被写体

Ⓕ繰り返しパターンの連続する被写体

ファインダー内のフォーカス表示は次のようになります。

被写体	フォーカス表示
ⒶⒷⒸ	▶◀マーク（赤LED）点滅
ⒺⒻ	●マーク（緑LED）点灯 （ピントが合っていないのに合焦表示となる）
Ⓓ	表示がでない

上記の場合は、苦手な被写体と等距離にある別の被写体にフォーカスロックするか、手動によるピント合わせ（P.48参照）を行なってください。

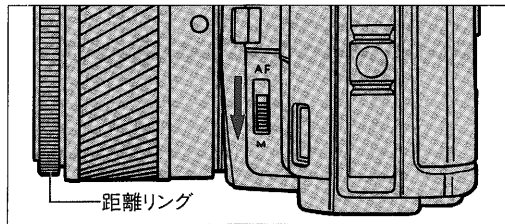
手動によるピント合わせ

次の場合は手動によりピントを合わせます。

●意図的に手動でピントを合わせたいとき ●マクロ付きズームレンズ※でマクロ撮影するとき	フォーカス表示または画面を見ながらのピント合わせ
●オートフォーカスの苦手な被写体を撮影するとき	画面を見ながらのピント合わせ

※AFズーム70-210mm/75-300mmを除く。それ以外のマクロ付きズームレンズでは、フォーカスモードスイッチがAFのままでもズームリングによるピント合わせができますが、フォーカスモードスイッチをMにして距離リングを最近接にしておけば最大撮影倍率が得られます。

フォーカス表示▶●◀の内容

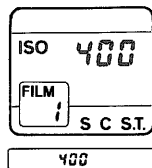
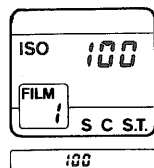
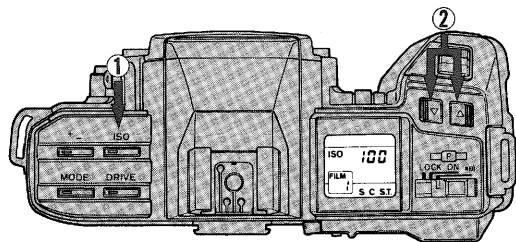
▶マーク(赤LED) 点灯	後ピン表示 (距離リングを右へ回転させます)
◀マーク(赤LED) 点灯	前ピン表示 (距離リングを左へ回転させます)
●マーク(緑LED) 点灯	合焦表示 (距離リングの回転をやめます)
▶◀マーク(赤LED) 点滅	検出不能警告

1 **フォーカスモードスイッチをMに。**

2 **ピントを合わせるものにフォーカスフレームを重ねます。**

3 **シャッターボタンに指を触れながら、フォーカス表示にしたがって距離リングを回します。**

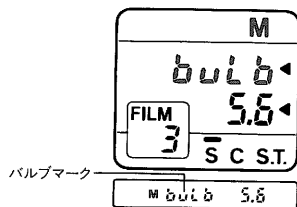
- フォーカス表示はシャッターボタンから指を離しても10秒間継続します。メインスイッチが■))) のときは、●マークが点灯すればブザー(ピピッ)が鳴ります。
- 画面を見ながらのピント合わせは、ファインダーをのぞきながら距離リングを回し、写すものがはっきりと見えるようピントを合わせます。

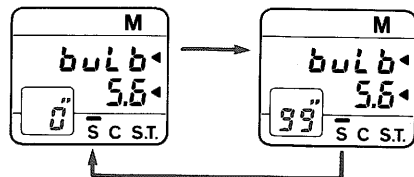
フイルム感度の合わせ方

DXコードのないフイルムや、規定のフイルム感度と異なる値をセットしたい場合は、次のようにします。

ISOキー①を押しながら、使用するフイルムのISO値が表示されるまでアップダウンキー②を押します。

- フイルム感度は25～6400まで1/3段ごとにセットできます。
- ISOキーを押すと、いつでもセットされているISO値を確認することができます。
- DXコード付きフイルムでフイルム感度を変更する場合、フイルムを入れ替えるごとにフイルム感度をセットしなおしてください。

例：フイルム感度100を400にセットしたいときは、ISOキーを押しながら、アップキーを6回押します。

長時間露出(バルブ)撮影

夜景や天体撮影など、任意の露光時間で長時間露出を行なうときは、Mモードのシャッター速度を**bulb**(バルブ)にします(P.36参照)。バルブではシャッターボタンを押している間、シャッターが開いています。

撮影中は露光時間0秒〜99秒が繰り返しカウントされます。

- ●逆入光を防ぐためアイピースキャップを接眼枠に取り付けてください。
- ●新品の単4形アルカリ乾電池を使用すれば、常温で連続約4時間(6Vパックリチウム電池では連続約12時間、単3形アルカリ乾電池では連続9時間)までの撮影ができます。ただし低温では電池性能が低下し撮影時間が短くなります。
- ●リモートレリーズターミナルにリモートコードRC-1000S/Lを取り付ければ、カメラぶれを防ぐことができるとともに、シャッターを開けたままロックすることができるので便利です。

★天体撮影などの長時間露出の途中で電池切れが予想されるときは、あらかじめ新品電池と交換してください。

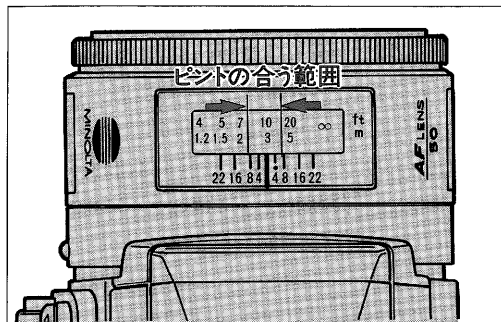
★三脚取り付けねじ穴の深さ(5.4mm)より長い三脚ねじを使うと、カメラの内部機構を破損するおそれがありますので、ご注意ください。また、ねじ込みの際、カメラを回して必要以上の力を加えないでください。

★バルブではセルフタイマーは作動しません。

赤外線写真撮影

赤外線フイルムとO56またはR60フィルターを用いて赤外線写真撮影を行なうときは、一般撮影のときとピントの合う位置が異なりますので、ピントの補正が必要です。

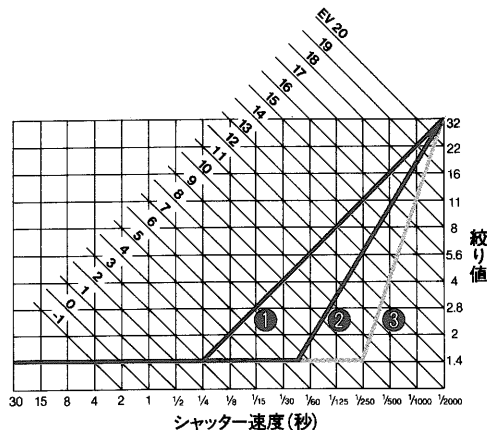
- 補正方法は各レンズの使用説明書をご覧ください。
- 赤外線フイルムの使用説明書にしたがって露出を決め、Mモードで撮影してください。

被写界深度の読み取り方

50㎜標準レンズの場合、レンズに上のような深度目盛が表示されています。たとえば撮影距離が3mで、絞りをF8に合わせて撮影すると｜マークの両側にある、8の範囲内(約2.5～4.5m)のものは、だいたい鮮明に写ることがわかります。深度目盛は目測でピントを合わせてスナップ撮影するときや、絞り効果を生かして撮影するときに利用すると便利です。

- ズームレンズには被写界深度目盛はありません。
- 被写界深度についてはP.58をご覧ください。

プログラムについて

Pモードで通常の定常光撮影を行なう場合、使用レンズの焦点距離により、3つのプログラムのいずれかが自動的に選択され、各焦点距離において最適な絞り値・シャッター速度が設定されます(オートマルチプログラム)。ズームレンズの焦点距離を変えたときも、自動的にプログラムが切り替わります。

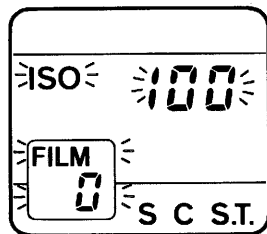
プログラムの種類	焦点距離	特　　長
❶ ワイドプログラム	34mm以下	より深い被写界深度が得られるよう、絞りは絞り気味に
❷ スタンダードプログラム	35〜105mm	標準的なプログラムライン
❸ テレプログラム	106mm以上	ブレを防ぐようシャッター速度は高速気味にし、絞りは開放気味に

メモリー機能について

メインスイッチをLOCK位置にしても以下の値がメモリー(記憶)されています。

メモリー内容	フイルムカウンター数値 ISO値 撮影モード ドライブモード 露出補正値 設定絞り値※ 設定シャッター速度※

※設定絞り値・設定シャッター速度のメモリー
本機はユーザーが設定する絞り値・シャッター速度をそれぞれ1つずつメモリーするようになっています。Aモードでは絞り値、Sモードではシャッター速度、Mモードでは絞り値およびシャッター速度の双方が設定可能で、最後に設定した値がその前の値に代わってメモリーされます。

リチウム電池について

バッテリーホルダーの電池が消耗した時や取り外した時は、工場出荷時に装てんされているボディ内蔵のメモリーバックアップ用リチウム電池が働き、フイルムカウンターとISO値のみメモリーします。
リチウム電池消耗時はバッテリーホルダー装着後、次のように表示が10秒間点滅します。

> ボディ内蔵のリチウム電池の寿命は約10年間です。
> リチウム電池の交換はミノルタサービスステーションにご用命ください。

写真の基礎

より楽しく写真を撮っていただくために、
写真の基礎をご一読ください。

撮影の基本は大きく分けて2つあります。

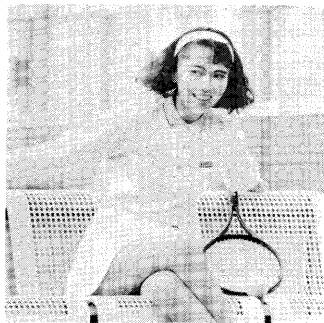
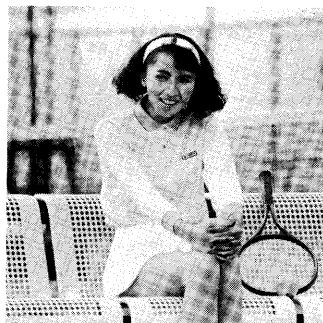
■ 正確なピント合わせ

■ 適正な露出

ピント合わせについてはP.18〜21、P.48で、ご理解頂けたと思います。

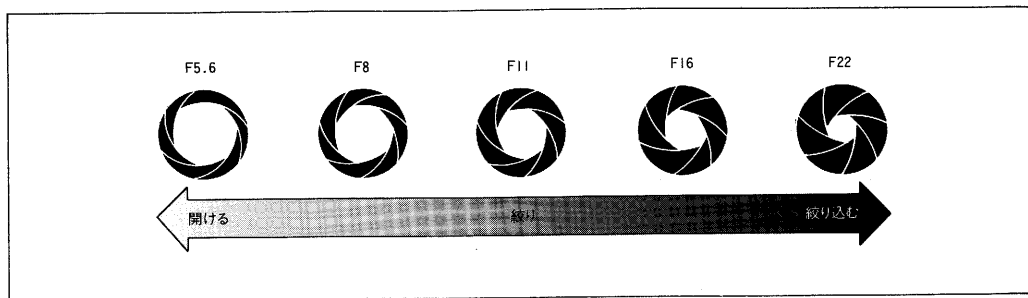
では次に露出についてお話しましょう。

露出

レンズからはいってきた光をフイルム面に当てることを露出と呼びます。
この露出は〝絞り〟と〝シャッター速度〟との組み合わせにより調節されています。

露出オーバー

適正露出

露出アンダー

絞りとシャッター速度

一眼レフの場合、まずはじめにレンズ部に組み込まれた絞り羽根がレンズへはいってきた光の量を調節します。

次にカメラ部のフイルム前面にある、シャッター幕の開いている時間によりフイルムに当たる光の量が最終的に決まります。
本機では、明るさに応じて適正露出となるように絞りとシャッター速度の組み合わせが決めてあるプログラムAEという撮影モードを装備しています。

しかし、同じ適正露出でも、シャッター速度や絞りの大きさにより、写真のイメージが大きく異なります。そのため、Pモード以外の撮影モードがあり、一眼レフならではの写真表現が簡単に楽しめます。

絞りの効果

主題を強調する

絞りを開けるほど、背景がボケてピントを合わせたものだけがはっきりと写ります(被写界深度が浅い)。

奥行きを出す

絞りを絞り込むほど、ピントを合わせたものの前後もはっきりと写ります(被写界深度が深い)。

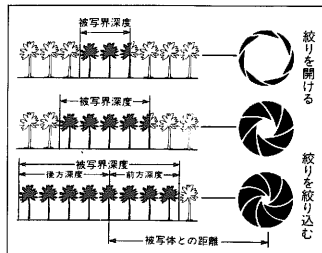
被写界深度について

ある被写体にピントを合わせたとき、ピントを合わせた被写体はもちろん、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度と呼び、範囲が広いときに深度が深いといい、範囲が狭いときに深度が浅いといいます。

被写界深度には、次のような性質があります。

①絞りを絞り込むほど被写界深度は深くなり、鮮明に写る範囲が広がります。

②同じ絞りなら焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなります。

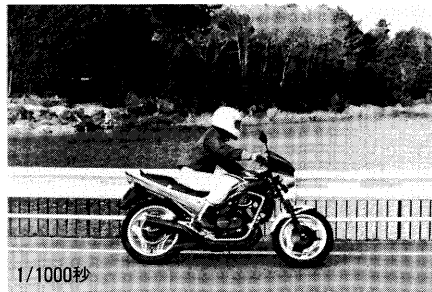
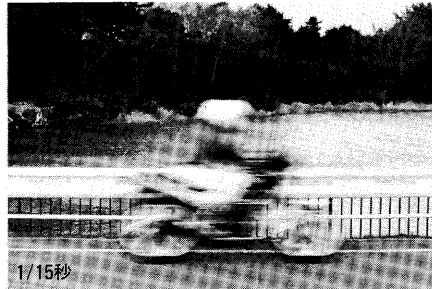
③ピントを合せた被写体の前方深度は浅く、後方深度は深くなります。

シャッター速度の効果

動きを止める

1/1000秒

シャッター速度が速いほど、動いているものが静止して写ります。

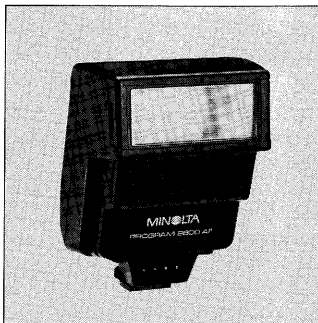
動きをぶらす

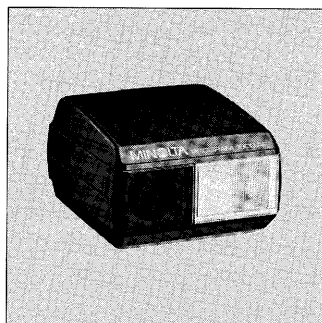
1/15秒

シャッター速度が遅いほど、動いているものが流れるように写ります。

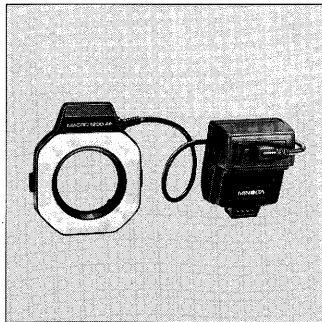
システムアクセサリーの紹介

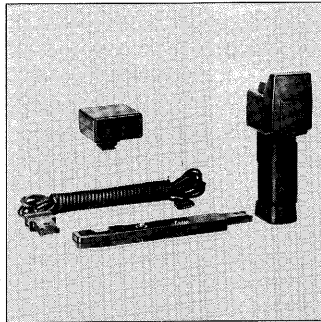
プログラムフラッシュ4000AF

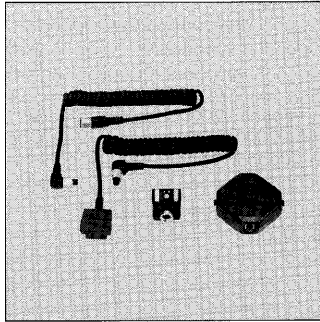
フラッシュ撮影をより自動化・多機能化したマイコン搭載のオートエレクトロフラッシュです。
照射角をレンズの焦点距離に応じて自動的に調節するオートパネルズーム機能などを備えています。

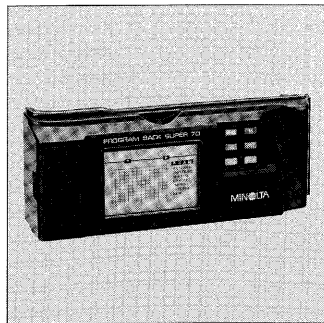
プログラムフラッシュ2800AF

多彩なフラッシュ撮影が簡単に行なえるオートエレクトロフラッシュです。

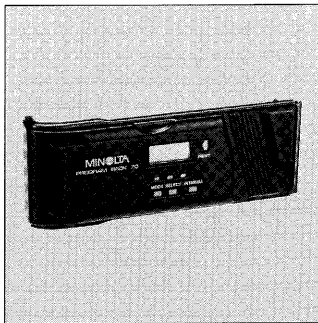
プログラムフラッシュ1800AF

フラッシュ撮影をより気軽にシンプルにした軽量コンパクトなオートエレクトロフラッシュです。

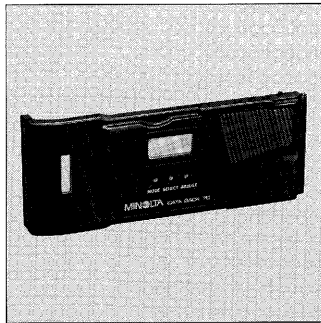
マクロフラッシュ1200AFセット

簡単に近接フラッシュ撮影ができるオートエレクトロフラッシュです。
1灯から4灯まで発光部を選べる選択発光方式などを備えています。

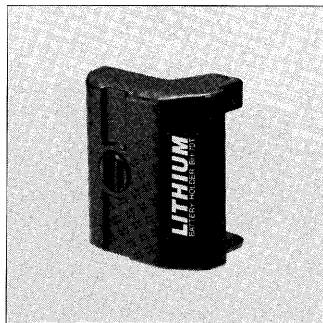
コントロールグリップCG-1000セット

プログラムフラッシュ4000AF/2800AF/マクロフラッシュ1200AFセットの発光性能を一段と高めるフラッシュ電源供給アクセサリーです。

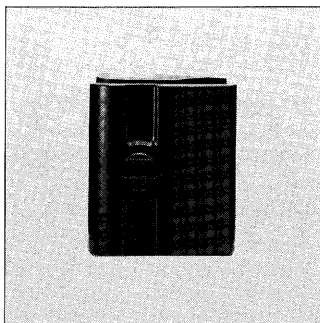
オフカメラ用アクセサリー

プログラムフラッシュをカメラから離して自由な位置から照明できるアクセサリーです。

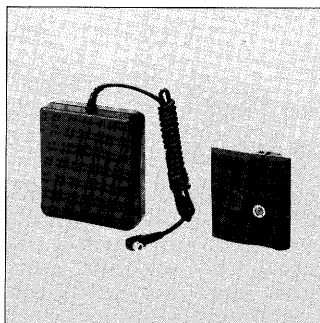
プログラムバックスーパー70

α-7000用の対話入力式スーパーマルチモードバックです。
プログラムラインの設定、最大9コマまでの自動ずらし露光機能、8点までの測光値メモリーと露出演算機能などを備えています。

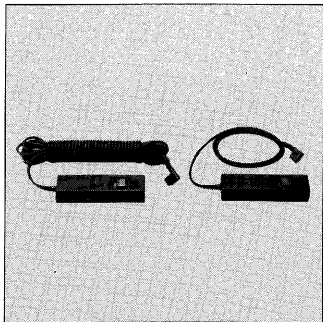
プログラムバック70

α-7000用の多機能データバックです。
7種類ものデータ写し込み機能、カメラの作動を自動制御するインターバル機能などを備えています。

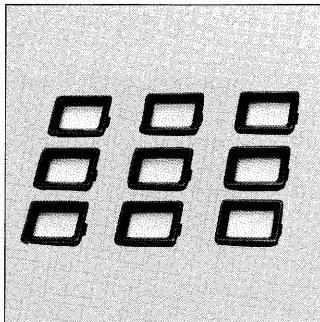
データバック70

日付けと時刻を写し込むことができるデータバックです。

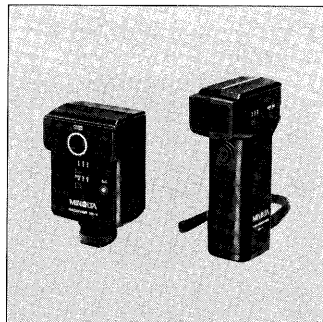
バッテリーホルダーBH-70T

高性能リチウム電池(2CR5)が使えます。リチウム電池は電池容量が大きく一度に多くの撮影をするときにより有利。しかも寒冷地での撮影にも優れた性能を発揮します。6Vパックリチウム電池付。

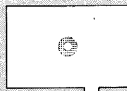
バッテリーホルダーBH-70L

標準装備のBH-70Sにかえて、単3形乾電池または単3形Ni-Cd電池が4本収納できるバッテリーホルダー。(一度に多くの撮影を行うときは単3形アルカリ乾電池、寒冷地では単3形Ni-Cd電池の使用をおすすめします。)

外部電源パックEP-70

電源部をカメラから離して使用できる電源装置です。
電源部をポケットに入れて保温すれば、低温時でも安定した状態でカメラを作動させることができます

リモートコードRC-1000S/L

カメラぶれを防止したいときの必需品としてだけでなく、オートフォーカスの遠隔作動もできるリモートコードです。Sは50cm、Lは5m。

視度調整アタッチメント1000

遠視あるいは近視の方に、−4ディオプターから+3ディオプターまでの9種類が用意されています。

ワイヤレスコントローラーIR-1Nセット

α-7000を、離れた場所から操作できるコントロール装置です。最高60mまで可能です。

フォーカシングスクリーン70

ご希望に応じてα-7000のフォーカシングスクリーンを交換することができます。

①方眼マット式(L型):複写・一般撮影用
②目盛線式(S型):接写・天体写真用
③スプリット式(PM型):一般撮影用

円偏光フィルター

水面やガラス面の不要な反射光を取り除いたり、青空を鮮やかに写すためのフィルターです。72・55・49mm径用の3種類があります。

Xシリーズのオートエレクトロフラッシュ

品　　名	ファインダー内の調光確認表示	フラッシュのFDCランプ
360PX	×	×
280PX*	×	×
マクロ80PXセット**	×	×
その他のXシリーズ	×	○

×…作動しません。　○…作動します。　*…ガイドナンバー"Lo"は設定できません。**…照明ランプはシャッターボタンに指を触れると消灯します。上記以外の機能はすべて作動します。

カメラケース

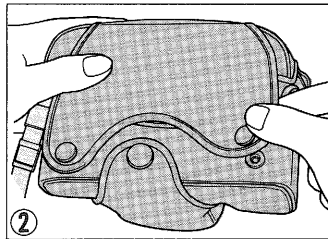
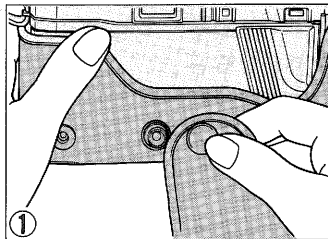
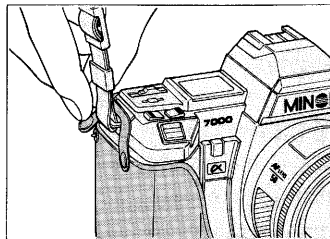
カメラケース CH-70　(●★)
カメラケース CH-70L　(●☆)
カメラケース CH-70D　(●★▲)
カメラケース CH-70DL(●☆▲)
カメラケース CH-71　(○★)
カメラケース CH-71L　(○☆)
フロントケース CF-70L(●☆)
フロントケース CF-71L(○☆)
ソフトケース CS-1001　(▨△)
ソフトケース CS-1002　(■△)
ソフトケース CS-1003　(□△)

●バッテリーホルダーBH-70S装着用　○バッテリホルダーBH-70L/T装着用
★20mm・24mm・28mm・50mm・35-70mm・マクロ50mmレンズ装着用
☆35mmF1.4・85mm・100mm・135mm・28-85mm・35-105mm・100-200mm・マクロ100mmレンズ装着用
▨16mm・20mm・24mm・28mm・35mmF2・50mm・24-50mm・35-70mm・マクロ50mmレンズ装着用
■35mmF1.4・85mm・100mm・135mm・28-85mm・28-135mm・35-105mm・100-200mm・マクロ100mmレンズ装着用
□200mm(+1.4×テレコンバーター)・70-210mm・75-300mm・80-200mmレンズ装着用
▲プログラムバック70・データバック70装着用
△プログラムバックスーパー70・プログラムバック70・データバック70装着用
(注)20mm・マクロ100mmレンズは★・☆に、80-200mmは□にレンズキャップのみで収納可能。

αレンズシステム

名　　称	画　角 (対角)	最近接撮影 距離(m)/倍率	フィルター径 (mm)	フード	大きさ(mm)	重量 (g)
AFフィッシュアイ16mmF2.8	180°	0.2/0.15	4種(内蔵)	固定	75×66.5	400
AF20mmF2.8	94°	0.25/0.13	72	バヨネット式	77.5×53.5	285
AF24mmF2.8	84°	0.25/0.16	55	バヨネット式	65.5×44	215
AF28mmF2	75°	0.3/0.13	55	バヨネット式	66.5×49.5	285
AF28mmF2.8	75°	0.3/0.13	49	内蔵	65.5×42.5	185
AF35mmF1.4	63°	0.3/0.2	55	バヨネット式	65.5×76	470
AF35mmF2	63°	0.3/0.17	55	バヨネット式	66.5×48.5	240
AF50mmF1.4	47°	0.45/0.15	49	内蔵	65.5×38.5	235
AF50mmF1.7	47°	0.45/0.15	49	内蔵	65.5×38.5	185
AF85mmF1.4	28°30′	0.85/0.13	72	バヨネット式	78×71.5	550
AF100mmF2	24°	1.0/0.13	55	バヨネット式	67×75.5	480
AF135mmF2.8	18°	1.0/0.16	55	内蔵	65.5×83	365
AFアポテレ200mmF2.8	12°30′	1.5/0.16	72	内蔵	86×134	790
AFアポテレ300mmF2.8※	8°10′	2.5/0.14	42(専用)	内蔵	128×238.5	2480
AFアポテレ600mmF4※	4°10′	6.0/0.11	42(専用)	内蔵	169×449	5500
AFズーム24-50mmF4	84°〜47°	0.35/0.18	55	スナップ式	69×60	285
AFズーム28-85mmF3.5-4.5(マクロ付)	75°〜29°	0.25/0.25	55	スナップ式	68.5×85.5	490
AFズーム28-135mmF4-4.5(マクロ付)	75°〜18°	0.25/0.25	72	――	75×109	750
AFズーム35-70mmF4(マクロ付)	63°〜34°	0.32/0.25	49	スナップ式	68×52	255
AFズーム35-105mmF3.5-4.5(マクロ付) NEW	62°〜23°	0.85/0.15	55	スナップ式	68.5×59.5	290
AFズーム100-200mmF4.5	24°〜12°30′	1.9/0.12	49	スナップ式	69.5×94.5	375
AFズーム70-210mmF3.5-4.5(マクロ付) NEW	34°〜12°	1.1/0.26	55	スナップ式	72.5×100	420
AFズーム75-300mmF4.5-5.6(マクロ付)	32°〜8°10′	1.5/0.26	55	スナップ式	72.5×163.5	865
AFズーム100-300mmF4.5-5.6(マクロ付)	24°〜8°10′	1.5/0.24	55	スナップ式	72.5×100	410
AFアポテレズーム80-200mmF2.8	30°〜12°30′	1.8/0.13	72	バヨネット式	87.5×166.5	1350
AFマクロ50mmF2.8	47°	0.2/1.0	55	――	68.5×59.5	310
AFマクロ100mmF2.8	24°	0.35/1.0	55	バヨネット式	71×98.5	520
AF1.4×テレコンバーターアポ★	――	――	――	――	64×20	175
AF2×テレコンバーターアポ★	――	――	――	――	64.5×43.5	210

※ノーマル・IB・ND・ND4X・Y52・O56・R60フィルター付 A12・B12フィルター別販売　　★AFアポテレ200mmF2.8/300mmF2.8/600mmF4専用

ケースの取り付け

1 **カメラをケースに入れ、ケースのフック(左右両側)をストラップに取り付けます。**

2 **前カバーのスナップを①②の順に止めます。**

- ズームレンズはレンズを最も短くします。
- メインスイッチはLOCKにしてください。

電池に関する注意

①電池を入れる時、電池の表面に汗やアブラをつけないようにしてください。汚れたまま使用すると、接触不良の原因になりますので、汚れがあるときは、乾いた布などできれいにふきとってください。

②電池は分解したり、火の中へ投入したりしないでください。

③電池の液もれや発熱、破裂の原因になりますので、下記のことは絶対にしないでください。

- 電池の極性（＋・－）を間違って入れる
- 表面の被膜が破れた電池を使用する
- 単4形電池で、種類の異なる電池を混ぜて使用したり、新しい電池と古い電池を混ぜて使用する

④単4形マンガン乾電池の使用は、撮影可能本数が非常に少なく、おすすめしません。また単4形ニッケルカドミウム蓄電池は電池の形状により通電しない場合がありますので、使用できません。

⑤温度の低いところで使うと、常温（20°C前後）のところで使うよりも電池の性能が低下し、電池寿命が短くなります。低温のところでは新品の電池を使って、カメラを保温しながら撮影してください。また、予備の電池もご用意ください。バッテリーホルダーBH-70T（別売）、バッテリーホルダーBH-70L（別売）、または外部電源パックEP-70（別売）とニッケルカドミウム蓄電池の使用をおすすめします。

手入れの仕方

①カメラの清掃は、からぶきで——

カメラは、ホコリをきらいますので、ときどき柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。カメラボディにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。また、エアボンベタイプのブロアーの強い風をシャッターやカメラの内部へ吹きつけることは絶対に避けてください。

②レンズの清掃は、レンズクリーナーで——

レンズを汚さないようにご注意ください。もし汚れた場合、ブロアーでホコリを除き、柔らかい清潔な布で軽くふきとってください。それでもとれないときには、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー(コダック製、富士フイルム製など)をごく少量つけて軽くふいてください。

液体クリーナー以外は、絶対に使わないでください。

③海岸で撮影したあとは——

カメラの表面を柔らかい布でよくふき、塩分などをふきとってください。

④ボディのバヨネット座板面を清掃するときは——

清潔な布で軽くふきとるだけにしてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。

取り扱い上の注意

①カメラは精密機械ですから、落としたり、大きな衝撃を与えないでください。また、カメラを水中に落としたり、カメラ内部に水滴が入ったりすると、内部の手の届かないところまで水分が回ってしまい、部品がサビついてしまうことがあります。こうなると修理不能か、修理ができても修理費用が高くなりますので、水辺で使用するときは、十分ご注意下さい。

②極めて低温のところで使用するときは、正規の作動をしないことがありますので、カメラを保温しながらお使いください。特に急激な温度の変化は、カメラ内部に水滴を生じる危険性がありますので、絶対に避けてください。本機の使用温度範囲は標準装備のバッテリーホルダー使用時−10°C〜+50°Cです。0°C以下では液晶表示の応答が遅くなることがあります。

③カメラ内部、特にミラーやシャッターには絶対に手を触れないでください。ミラーが汚れたときは、当社サービスステーションまでカメラをお持ち下さい。

④マウント内上部にある信号ピンは触らないで下さい。汚れ等により接触不良になると信号授受が正しく行なわれなくなります。

保管の仕方

①2週間以上使わないときは――
できるだけバッテリーホルダーから電池を取り出しておいてください。電池の液もれでカメラを害することがあります。

②長期間カメラを保管された場合は使用前に電池性能、カメラの作動をチェックされることをおすすめします。

③カメラの保管場所――
高温・多湿のところやホコリっぽいところは避けて、風通しのよいところに保管してください。乾燥剤(シリカゲルなど)といっしょに保管すれば、より安全です。

④カメラを持ち運びするときは――
自動車のリアウインドやトランクの中などに放置すると、真夏の炎天下では極度の高温になり、カメラを故障させることがありますので、このような場所には、カメラを放置しないでください。

⑤カメラとレンズを保管するときは、接点部を保護するため、必ずボディキャップとレンズ後キャップをそれぞれに取り付けて保管してください。

故障かな?…と考える前に

何か異常が生じた場合は、まず電池交換およびプログラムリセットキーを押してください。さらに下記のことをお調べのうえ、それでも具合いが悪い場合は、お近くのサービスステーションにお問い合わせください。

症　状	原　因	処　置
表示が出ない。	●電池が消耗しています。 ●電池の向きが間違っています。 ●バッテリーホルダーがゆるんでいます。	●4本とも新しい電池に交換してください。 ●バッテリーホルダー内に表示された向きに、正しく入れてください。 ●バッテリーホルダーを正しく取り付けてください。
シャッターボタンを押し込むと表示が消えて作動しなくなる。	●電池が消耗しています。	●4本とも新しい電池に交換してください。
シャッターボタンに指を触れると絞り表示が--となる。	●レンズが正しく取り付けられていません。 ●カメラのマウント内およびレンズマウントにある信号接点が汚れています。	●レンズはカチリとロックがかかるまで回して取り付けてください。 ●清潔な乾いた布で軽くふきとってください。
フイルムカウンターが0のまま進まない。	●フイルムが正しく巻き上っていません。	●フイルムを正しく入れ直してください。

オートフォーカスが作動しない。ピントが合いにくい。	●レンズが正しく取り付けられていません。 ●フォーカスモードスイッチがM側になっています。 ●オートフォーカスの苦手な被写体です。	●レンズはカチリとロックがかかるまで回して取り付けてください。 ●フォーカスモードスイッチをAF(オートフォーカス)側にしてください。 ●フォーカスロックを利用するか、手動によるピント合わせを行なってください。
フラッシュ撮影でフラッシュが発光しない、またはシャッター速度が同調速度に切り替わらない。	●フラッシュの電源がOFFになっています。 ●カメラとフラッシュが正しく接続していません。	●フラッシュの電源をONにして、充電完了表示が出るか確かめてください。 ●フラッシュとカメラの接続を確めてください。カメラのホットシューにフラッシュを取り付ける場合は、いっぱいまで差し込んでください。
フラッシュ撮影でピントが合わない。	●被写体との距離が遠すぎ、または近すぎます。 ●反射率の低い被写体をねらっています。 ●使用レンズの焦点距離が100mm以上です。	●フラッシュの使用説明書"AF用補助光機能"を参考に、被写体との距離を調整してください。 ●ほぼ同距離にある別の被写体でピント合わせしてください。 ●より短い焦点距離のレンズを使用するか、または手動によるピント合わせを行なってください。

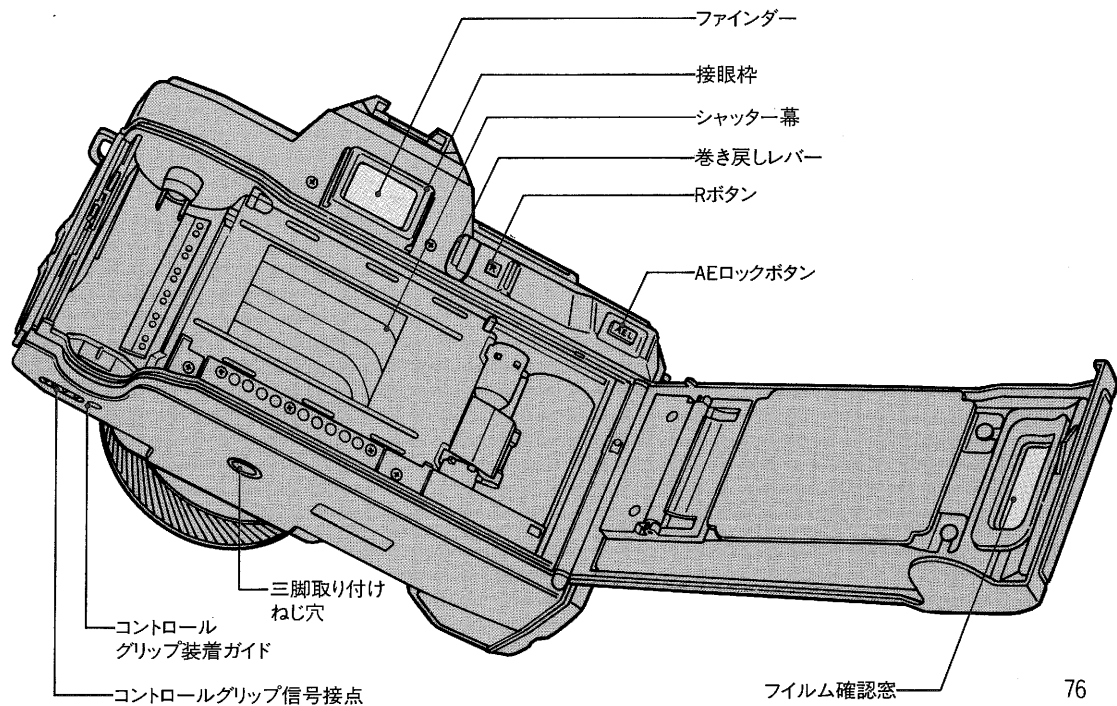
主な性能

項目	内容
型式	マイクロコンピュータ制御35mmAE一眼レフオートフォーカスカメラ
撮影方式	P(プロクラムAE…ワイド・スタンダード・テレプログラム自動設定、プログラムシフト可能)、 A(絞り優先AE)、S(シャッター速度優先AE)、M(マニュアル)
使用フイルム	パトローネ入り35mmフイルム(135型)
画面サイズ	24×36mm
レンズマウント	ミノルタAマウント(含油ステンレス合金使用)
使用レンズ	ミノルタαレンズ
オートフォーカス	TTL位相差検出方式　検出可能輝度範囲:EV2～19(ISO100) 検出素子:CCD 表示:ファインダー内LEDにより合焦および検出不能警告を表示 合焦時、電子ブザー音(消音可) フォーカシング:シャッターボタン半押しで駆動、合焦位置でフォーカスロック マニュアルフォーカシング可能
測光方式	TTL開放測光、中央重点的平均測光(専用フラッシュ使用時はダイレクト測光) 測光範囲:EV−1～20(ISO100・F1.4レンズ使用時)
受光素子	シリコンフォトセル 2個(接眼部上部、ミラーボックス底面)
シャッター型式	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	P・Aモード…1/2000秒～30秒(無段階)、S・Mモード…1/2000秒～30秒(1段ごと)、1/100秒、 bulb(Mモードで設定、露出時間はカメラの電池寿命により制限される)
レリーズ	電磁レリーズ方式 リモートリーズターミナル付き 電池電圧低下時シャッターレリーズロック
ボディ液晶表示	撮影モード、絞り値、シャッター速度、ドライブモード、露出補正値、フイルム感度、 フイルムカウンター/セルフ・バルブ時タイムカウンター
ファインダー内表示	撮影モード、絞り値、シャッター速度、露出補正値、フイルム感度、測光連動外警告/メータードマニュアル表示、3点LEDによるフォーカス表示、フラッシュ充電完了および調光確認表示
ファインダー	フォーカスフレーム付き全面アキュートマット(標準、他に3種類交換可能)　視度率:94% 倍率:0.85倍(50mm標準レンズ∞のとき)　視度:−1 diopt　照明:低輝度時自動点灯
フイルム感度範囲	ISO25～6400 1/3段ごと DXフイルム使用時は自動設定

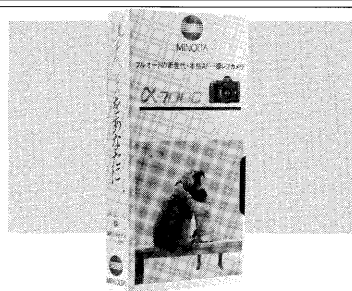
ＡＥロック	P・A・S・モード時、AEロックボタンの押し込みにより可能
露出補正	−4.0〜+4.0EV 1/2段ごと
セルフタイマー	電子セルフタイマー、シャッターボタンによるスタート、作動時間10秒、LEDの点滅および電子ブザー音(消音可)により作動表示、ボディ液晶表示部のカウンターにより残時間表示、途中解除可能
フラッシュ撮影方式	Pモード(同調速度:1/100秒または1/60秒に自動設定)、Aモード(同調速度:1/100秒に自動設定、AEロックにより1/60秒〜30秒に設定可能)、Mモード(同調速度:1/100秒〜30秒に設定可能)、いずれもフラッシュ光はダイレクト測光による自動調光、専用フラッシュのAF用補助光機能によるオートフォーカス可能
フイルム装てん	オートローディング(裏ぶたを閉じると1コマ目撮影位置までフイルム自動給送自動停止)
フイルム巻き上げ	自動巻き上げ、一コマ撮影(S)、連続撮影(C)の切り替え可、連続撮影時最高2コマ/秒の連続巻き上げ可能
フイルム終了	フイルムカウンターの点滅および電子ブザー音(消音可)により警告
フイルム巻き戻し	Rボタンと巻き戻しレバーにより自動巻き戻し開始、巻き戻し終了後自動停止、フイルムカウンター「0」復帰
ミラー	クイックリターンミラー、(ハーフミラー/サブミラー付き)
使用電池	単4形アルカリ乾電池(LR-03)4本 別売BH-70Tの使用により、6Vパックリチウム電池2CR5(三洋電機製)、別売BH-70Lの使用により、単3形アルカリ乾電池、マンガン乾電池、Ni-Cd蓄電池(いずれも4本)使用可能 バッテリーホルダーによる着脱式 メモリーバックアップ用リチウム電池内蔵、寿命約10年、消耗時警告表示あり
撮影可能本数	24枚撮りフイルム約25本(単4形アルカリ乾電池使用時:当社試験条件による)
バッテリーチェック	常時自動チェック、ファインダー内表示およびボディ液晶表示部が点滅警告
裏ぶた	交換可能、グリップ、フイルム確認窓付き
その他の機能	プログラムリセットキー、電子ブザーによるカメラぶれ警告(消音可)
大きさ・重量	138(幅)×91.5(高さ)×52(奥行)mm 555g(電池別)

●ここに記載の性能および製品の外観は、都合により予告なく変更することがあります。

各部の名称②

ファインダー
接眼枠
シャッター幕
巻き戻しレバー
Rボタン
AEロックボタン
三脚取り付け
ねじ穴
コントロール
グリップ装着ガイド
コントロールグリップ信号接点
フイルム確認窓

使用説明ビデオ&テキストの紹介

「αフォトグラフィテキスト」

α-7000を使ってより良い写真を撮っていただくためのテキスト。レンズやフラッシュ、フイルムの選び方、構図や光の演出法、表現の実践、カメラの基礎知識等をわかりやすく解説しています。風景編・ポートレート編・マクロ編の3種類があります(有料)。
(いずれもB5判 40ページ)

「αチャンスをあなたに」α-7000編

α-7000の基本的な使い方を中心に写真の撮り方や楽しさ等を初心者の方にもわかりやすく解説したビデオテープです(有料)。
(VHS30分)

ご希望の方は、お近くのサービスセンター、サービスステーションへお問い合わせください(裏表紙参照)。

アフターサービスについて

①本製品の補修用性能部品は10年間を目安に保有しております。

②アフターサービスに関しては『アフターサービスのご案内』に詳しく記載しておりますので、ご覧ください。

ミノルタカメラ株式会社

ミノルタカメラ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿	〒160	東京都新宿区新宿3-17-5(カワセビル3階)	TEL (03)3356-6281(代)
銀　座	〒104	東京都中央区銀座5-11-13(ニュー東京ビル1階)	TEL (03)3545-3531(代)
大　阪	〒530	大阪市北区梅田1-11(大阪駅前第4ビル7階)	TEL (06)341-6501(代)
本　町	〒541	大阪市中央区備後町2-4-9	TEL (06)201-5816(代)

サービスステーション

札　幌	〒060	札幌市中央区北2条西4-1(三井ビル10階)	TEL (011)281-6666(代)
仙　台	〒980	仙台市青葉区大町2-2-10(住友生命仙台青葉通りビル2階)	TEL (022)261-3431(代)
新　潟	〒950	新潟市東万代町1-30(新潟東万代ビル4階)	TEL (025)244-7188(代)
松　本	〒390	松本市深志2-4-26(太陽生命松本ビル6階)	TEL (0263)36-6188(代)
横　浜	〒221	横浜市神奈川区鶴屋町2-17-1(相鉄鶴屋町ビル6階)	TEL (045)314-9221(代)
静　岡	〒420	静岡市御幸町5-9(静岡FSビル7階)	TEL (054)251-7301(代)
名古屋	〒460	名古屋市中区丸の内3-18-28(KSビル5階)	TEL (052)962-6761(代)
金　沢	〒920	金沢市昭和町16-1(ヴィサージュ9階)	TEL (0762)60-5911(代)
広　島	〒730	広島市中区橋本町9-7(リクルート広島ビル4階)	TEL (082)223-2501(代)
高　松	〒760	高松市寿町1-2-5(朝日生命高松第2ビル4階)	TEL (0878)51-6239(代)
福　岡	〒812	福岡市博多区博多駅東2-2-2(博多東ハニービル1階)	TEL (092)441-6121(代)

営業時間 ………………… 新　宿　10:00〜18:00(祝日定休)
大　阪　10:00〜18:00(日・祝日定休)
その他　9:00〜17:30(土・日・祝日定休)

9223-2072-41 N9110-B41